

# 自己点検・評価表

平成21年度

新潟薬科大学応用生命科学部

## まえがき

各教員、各委員会に執筆依頼して出来上がりました平成21年度分の「自己点検・評価表」をお届けします。この作成に当たっては、自己点検票に教育と研究活動に関する自己評価の項目を新たに設けました。

平成21年は前年に引き続き、平成20年度分自己点検表について3名の外部評価委員の方々のご協力を得て応用生命科学部の外部評価を実施しました。二度の外部評価によって応用生命科学部および大学院応用生命科学研究科の教育、研究、運営の課題が浮かび上がってきました。指摘された課題を個人で、あるいは委員会、学部全体または大学全体で共有して受け止めてその解決に当たることが求められます。学部開設から十年目を迎えて改革の時期に差し掛かっており、具体的な取り組みも始まっています。目標をたて、行動し、点検・評価する仕組みも定着しつつあります。これからは毎年の自己点検・評価を積み上げて何年かに一度の外部評価を受け、さらに七年に一度の大学基準協会による大学評価を受ける方法が適当なのではないでしょうか。

教員個人および委員会の自己点検・評価が応用生命科学部の教育、研究、社会貢献に寄与する一助となることを願っています。

平成23年2月28日

応用生命科学部長(平成21年度)

平岡 昇

## 目次

### ●教育職員の自己点検・評価表

| 研究室           | 教授        | 頁  | 准教授   | 頁  | 助教     | 頁  | 助手     | 頁  |
|---------------|-----------|----|-------|----|--------|----|--------|----|
| 動物・細胞生物学      | 市川 進一     | 2  |       |    | 伊藤 美千代 | 43 |        |    |
| 応用微生物・遺伝子工学   | 梨本 正之     | 4  | 高久 洋暁 | 27 |        |    |        |    |
| 生物機能化学        | 石黒 正路     | 6  | 米田 照代 | *  | 田宮 実   | 46 |        |    |
| 植物資源学・細胞工学    | 平岡 昇      | 9  |       |    | 相井 城太郎 | 48 |        |    |
| 環境安全科学        |           |    | 川田 邦明 | 29 | 小瀬 知洋  | 50 |        |    |
| 生物分子科学        | 武内 征司     | 11 | 中村 豊  | 33 |        |    | 小島 勝   | 60 |
| 化学・生物学        | 波田野 義比古   | 13 |       |    |        |    |        |    |
| 化学・生物学        | 太田 達夫     | 14 |       |    |        |    |        |    |
| 食品機能科学・食品分析科学 | 小西 徹也     | 15 | 佐藤 眞治 | 35 | 西田 浩志  | 52 |        |    |
| 食品・栄養科学       |           |    | 三宅 紀子 | 37 | 永塚 貴弘  | 54 |        |    |
| 食品製造・食品工学     | 平山 匡男     | 19 | 重松 亨  | 39 |        |    |        |    |
| 食品微生物・食品安全学   | 浦上 弘      | 21 |       |    | 小長谷 幸史 | 56 |        |    |
| 食品生物学・分子科学    | 鯨坂 勝美     | 24 | 新井 祥生 | 41 | 宮崎 達雄  | 57 |        |    |
| 機能性食品開発       | 平山 匡男(兼任) |    |       |    |        |    | 川上 賀代子 | 62 |
| 英語            |           |    | 高橋 歩  | 42 |        |    |        |    |

\*退職

### ●委員会

| 委員会   |             | 頁  |
|-------|-------------|----|
| 学部委員会 | 予算委員会       | 64 |
|       | 将来計画委員会     | 65 |
|       | 自己点検・評価委員会  | 66 |
|       | FD委員会       | 67 |
|       | 教務委員会       | 68 |
|       | 学生委員会       | 69 |
|       | 入試委員会       | 71 |
|       | 入試委員会（広報関係） | 72 |
|       | 就職委員会       | 73 |
|       | 図書委員会       | 74 |
|       | 国際交流委員会     | 75 |
|       | 共通機器・施設委員会  | 76 |
|       | 防災委員会       | 77 |

| 委員会           |                  | 頁  |
|---------------|------------------|----|
| 全学委員会         | ホームページ委員会        | 78 |
|               | ハラスメント防止委員会      | 79 |
|               | 大学入試センター試験実施委員会  | 80 |
|               | 図書館運営委員会         | 82 |
|               | 倫理審査委員会          | 86 |
| センター(全学)      | 産官学連携推進センター運営委員会 | 87 |
| 施設・管理<br>(全学) | IT委員会            | 89 |
|               | 体育施設管理運営委員会      | 90 |
|               | 放射線安全管理委員会       | 91 |
|               | R I 利用施設運営委員会    | 92 |
|               | 動物実験委員会          | 93 |
|               | 組換えDNA実験安全委員会    | 94 |
|               | 病原体等安全管理委員会      | 95 |
| 研究科の委員会       | 研究科入試委員会         | 96 |
|               | 研究科教務委員会         | 97 |

### ●資料

|                   |    |
|-------------------|----|
| 授業担当時間・委員会担当・研究業績 | 98 |
|-------------------|----|

# 自己点検・評価表

# 平成21年度 自己点検票（記入要領と記載例）

（記載事項がない項目は、項目名を残して空欄とする。記載事項が多い場合複数頁も可。）

| 職名  |  | 氏名 |  | 研究室等 |  |
|---|--|----|--|------|--|
| <p>1 教育活動(業績) 年間総時間数: 時間(別添ファイルの数字)</p> <p>学 部 授 業:教科目名、学年、前後期の区別、コマ数を記載する。コマ数は、その数え方を統一するために、<br/>教務課で作成した一覧表「H21担当授業時間数(平成21年5月1日現在)」の授業コマ数を参照してその数字を記入する。 例:〇〇学(1年前期14)、△△学(2年後期14)</p> <p>大学院授業:〇学特論(前期8)、〇学特殊講義(後期8)</p>                         |  |    |  |      |  |
| <p>2 研究活動(業績) 形式は自由とし、本人の名前に下線をつける。</p> <p>①発 表 論 文:査読のある学術誌掲載論文</p> <p>②学 会 発 表:</p> <p>③著 書:</p> <p>④特 許 出 願:</p> <p>⑤科 研 費:</p> <p>⑥受託研究費:</p> <p>⑦奨学研究費:</p> <p>⑧その他の研究活動:その他の論文を含む。</p>  |  |    |  |      |  |
| <p>3 委員会等の活動</p> <p>法 人:評議員</p> <p>大 学・学 部:部局長会、産官学連携推進センター、学生委員会(委員長)、教務委員会</p> <p>大 学 院:入試委員会</p>   |  |    |  |      |  |
| <p>4 社会的活動</p> <p>学 会 活 動:所属学会を記載し、編集委員、役員などを担当している場合は役職名をカッコ内記載する。<br/>日本化学会(編集委員)、日本生化学会(評議員)、日本薬学会</p> <p>公 的 活 動:国、地方公共団体、公的団体の役員、委員、審査員など。新潟市〇〇審議会委員</p> <p>非常勤活動:他の教育機関の非常勤講師、学術的な講演・講義・講習の講師、児童生徒を対象とした講座<br/>(SPP、出前講義など)の講師、学術集会の実行委員など。</p> |  |    |  |      |  |
| <p>5 教育、研究に対する自己評価と提言</p>   |  |    |  |      |  |

# 学部委員会

|  |       |
|--|-------|
| 委員会名   | 予算委員会 |
| 委員長及び委員氏名:(委員長に◎、記入者氏名に下線)<br>◎ <u>平岡 昇</u> 、武内 征司、波田野義比古、太田 達夫、浦上 弘、鯨坂 勝美   |       |
| 年間の活動:<br>1)平成21年度決算<br>1,000 万円単位の黒字予算編成で出発した。決算では、入学定員以上の新入生を確保できたこと、寄付金と補助金の増額、教員人件費の抑制を引き続き実施したこと、各予算単位で支出削減努力をしたことなどの要因により決算においても黒字を確保できた。<br>2)平成22年度予算編成<br>平成22年度の予算編成は、定員割れだった学年が前年度で卒業したこと、予算学生定員を 132 名としたことにより 1 千万円台の黒字予算を組むことができた。 |       |
| 問題点の提起:<br>定員割れ学年のなくなった平成 22 年度からさらに毎年引き続いて入学生を確保することで安定した経営基盤を確立することが最大の課題である。直接的な入試・広報活動とともに教育と研究を通して大学の存在、社会貢献をアピールすることで社会ひいては受験生を引き付ける努力をすることが大切である。   |       |
| 平成22年度の活動目標:<br>予算上の入学者数を 132 名で組んでかろうじて黒字予算となっている現状から脱出して、本来の入学者数の定員で余裕のある予算編成が可能な発展策の模索が求められる。   |       |

|  |         |
|--|---------|
| 委員会名   | 将来計画委員会 |
| <p>委員長及び委員氏名:(委員長に◎、記入者氏名に下線)</p> <p>◎<u>平岡 昇</u>、武内 征司、波田野義比古、太田 達夫、浦上 弘、鯨坂 勝美</p>  |         |
| <p>年間の活動:</p> <p>平成 21 年 3 月 17 日に将来計画懇談会が開催されて「将来計画(案)」のグループ討議が行われた。そこでは、3 つの中期目標については、異論は出なかったが、学部の方向性を明確にすることの必要性が強調された。これを受けて本年度は、まず小委員会でのこの課題について討議して方向性に関する案をまとめた。すなわち、生物とその機能の解明と応用を通して解決できる地球規模の緊急の諸課題および新潟県の産業構造に着目して本学部の教育と研究の重点領域を、1) 食品開発製造、食品機能、食品ゲノミクス、食品衛生などの食品科学分野、2) 環境化学、環境資源、植物資源などの環境・植物分野、3) 遺伝子工学、細胞生物学、機能化学などの生命科学基礎分野の3分野に定めることを提案した。その後、本学部への応募者の減少予測などを考慮して学費問題の方向性について討議を行い、学費減免に関する規程整備への道筋をつけた。年度末までに先の方向性を定めることができないまま、次期将来計画委員会へ引き継ぐこととなった。</p> |         |
| <p>問題点の提起:</p> <p>委員会としての牽引力が不足していた。学部内の意見集約の方法を工夫すること、その結果を具体的な案として提示することに欠けていた。</p>  |         |
| <p>平成22年度の活動目標:</p> <p>非常におざっぱではあるが、学部の方向性に関する議論が具体化してきたので、さらに討議を深めて教育研究体制に関する具体案を作成し、これと並行して具体的な教育計画の作成、さらには内容によっては文部科学省への手続きに入る準備を行う。</p>  |         |

|  |            |
|--|------------|
| 委員会名   | 自己点検・評価委員会 |
| <p>委員長及び委員氏名:(委員長に◎、記入者氏名に下線)</p> <p>◎<u>平岡 昇</u>、武内 征司、浦上 弘、佐藤 眞治</p>   |            |
| <p>年間の活動:</p> <p>1) 学生による授業評価</p> <p>WEB を利用するこれまでと同様の方法で前期と後期にこの評価を実施した。学生の参加率は例年通り学年進行とともに低下したが、概して良好であった。教員によるコメントを付してホームページにアップして学内公開した。</p> <p>2) 自己点検・評価表の作成</p> <p>記入要領を若干変更して昨年同様に各教員、各委員会に依頼して作成した。</p> <p>3) 外部評価の実施</p> <p>昨年度と同じ3名の外部評価委員に評価用資料を送付して評価を依頼し、平成21年12月16日に本学において評価会議を開いた。</p>   |            |
| <p>問題点の提起:</p> <p>平成20、21年度の自己点検・評価委員会の活動を総括する中で、次のような問題点や課題が指摘された。</p> <p>1) 学生による授業評価の中に、学生の学習時間に関する質問項目を加えて学習時間を把握する。</p> <p>2) 自己点検・評価表の作成時期を早めて5月中に終了する。</p> <p>3) 外部評価の時期を早める。また、その会議を外部評価委員と委員長だけで開催しないで、全教員が集まった場所で行う。さらに、懇親会もカフェテリアを会場にして全教員の参加をよびかけて外部評価の実りを多くする形態に変更する。</p> <p>4) 自己点検・評価表の作成は毎年実施することとするが、外部評価委員による評価の頻度については、2～3年に1度実施するのが適当である。大学基準協会による大学評価が平成19年度に行われ、次回の評価は平成26年度に予定されている。さらに学部の再編が進行中であることを考慮すると次の外部評価は平成24年度が適当ではないか。</p> |            |
| <p>平成22年度の活動目標:</p> <p>学生による授業評価は例年通り実施する。</p> <p>教員、委員会の自己点検・評価表の作成時期を春に早めて実施する。</p> <p>平成22年度は外部評価を実施しない。平成24年度実施に向けて検討されている学部の再編成、カリキュラム改訂に伴う作業量を考慮するとこの方針は適当と思われる。</p>   |            |



|   |             |
|---|-------------|
| 委員会名  | FD委員会（大学院兼） |
| <p>委員長及び委員氏名：(委員長に◎、記入者氏名に下線)</p> <p>◎ <u>佐藤 眞治</u>、武内 征司、浦上 弘、梨本 正之、高橋 歩</p>   |             |
| <p>年間の活動：</p> <p>平成22年2月17日(水)10:00～12:00に県内大学間FDネットワーク化をめざす協議会(共生型大学連携FD協議会・TV会議活用)に参加した。新潟県内高等教育機関FD調査結果に関する報告とFDに関する情報交換を行った。平成21年度「学習・教育研究フォーラム」(平成22年3月19日(金)10:00～17:00、新潟大学)において、高橋 歩先生が、「初年次教育科目「応用生命科学概論」・「コミュニケーション論A」授業報告—新潟薬科大学応用生命科学部の場合」の発表題目で発表を行った。</p> <p>初年次教育として、生物演習、有機化学演習、無機化学演習、研究室紹介を行った。初年次教育については一定の効果が現れており、次年度も引き続き取り組む必要があると考えられた。学生による授業評価を前期と後期で行った。教員の授業改善のための一定の効果が現れており、次年度も引き続き行う必要があると考えられた。大学院博士後期課程の設置に伴い、博士後期課程の教育を充実させる必要がある。民間企業からの入学者も含まれるため、個別の指導の他に中間発表会などを行った。</p> |             |
| <p>問題点の提起：</p> <p>昨年度と同様に、入学後1年以内に退学する学生が存在する。入学後の初年次教育などを充実させ、大学で勉強する目的や動機を明確に自覚させる必要がある。本学部の教育や研究に関する問題は、初年次教育にとどまらず、学生の就職活動に関しても充実させる必要があると考えられる。3年後期からの就職活動の前段階のキャリア教育の充実が必要である。</p>  |             |
| <p>平成22年度の活動目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生による授業評価を充実させる。</li> <li>・ 初年次教育を充実し、大学で勉強する目的や動機を明確に自覚させる。</li> <li>・ 3年後期からの就職活動の前段階のキャリア教育を充実させる。</li> <li>・ 大学院生への教育をさらに充実させる。</li> </ul>   |             |

|  |       |
|--|-------|
| 委員会名   | 教務委員会 |
| <p>委員長及び委員氏名:(委員長に◎、記入者氏名に下線)</p> <p>◎<u>波田野義比古</u> 梨本正之 川田邦明 新井祥生 高橋歩</p>   |       |
| <p>年間の活動:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学年暦、時間割の作成、非常勤講師の手配等のルーチン業務は支障なく実施できた。</li> <li>○今年度で2回目となる転学部試験を実施し、4名を22年度の応用生命科学部2年生として受け入れた。</li> <li>○今年度から1年前期に初年次教育を導入した。正規のカリキュラムに載せることが出来ないため、選択科目のコミュニケーション論 A のコマを借りての暫定的実施であるが、全員履修を指導した。専門家不在の手探り状態での実施であったが、その効果については検証中であるが、一定程度の効果はあったとする肯定的評価が多い。22年度は本学部での学習に即役立つように内容を改善して実施する。</li> <li>○懸案のカリキュラム改正であるが、下でも述べるように教員組織の再編計画が不明確なため十分な検討に至らなかった。この問題は新学部長の下、22年度からの教務委員会に引き継がざるを得なかった。</li> </ul> |       |
| <p>問題点の提起:</p> <p>退職教員の補充が行われず、教員の負担が重くなると共に、負担の格差も大きくなっている状況は変わっていない。2年以内に数名の教授が退職することから、教員組織の再編とカリキュラム改正が必要であるが。</p> <p>教員組織の再編は将来計画委員会で検討中であるが、21年度中には再編計画が示されなかったため、カリキュラム改正も具体案には踏み込めなかった。22年度には新学部長から教員組織の再編案が示されると伺っているので、24年度でのカリキュラム改正に向け新教務委員会で具体案の作成を急ぐ必要がある。</p> <p>その際には、負担の格差是正のため助教層の講義参加を増やす必要がある。</p> <p>また、近年の本学部入学生の学力低下に対処するため初年次教育が一層重要になっている。新カリキュラムには、2年間の経験を踏まえて初年次教育の充実策を盛り込むことが必要である。</p>  |       |
| <p>平成22年度の活動目標:</p> <p>22年度から新教務委員会になるが、カリキュラム改正が最重要課題となると考えられる。</p>   |       |

|  |       |
|--|-------|
| 委員会名   | 学生委員会 |
| <p>委員長及び委員氏名:(委員長に◎、記入者氏名に下線)</p> <p>◎ <u>太田 達夫</u>、川田 邦明、重松 亨、三宅 紀子、高久 洋暁</p>   |       |
| <p>年間の活動:</p> <p>4 月 新入生アドバイザー割付、新入生及び在学生オリエンテーション学生指導、新入生アドバイザー面談会、新入生歓迎会(学友会主催の指導)、アドバイザー配属学生との個別面談会実施推奨、昨年度後期行方不明となり復帰した S 君の履修等指導。新入生からアスペルガーである旨の申告とそれへの対応。</p> <p>5 月 小さな事件事故(バイクと自転車接触事故がひき逃げ事件に、放置自転車ちよい借りが窃盗事件に、ケータイ料金の振り込め詐欺事件被害)についての注意喚起と秋葉署による防止キャンペーン実施(5/15)。学生の駐車許可証発行(296 台)。五月病への監視要請、学生個別把握の依頼。</p> <p>6 月 球技大会(6/6, 7)実施。今年度、応用生命科学部主体の卒業式となることから実施場所を検討(オークラホテルで実施決定)。臨床講義棟新築工事進行で学生食堂の営業停止(6/29～10/14)期間の食事提供方法検討、弁当販売の強化で賄う。</p> <p>7 月 卒業アルバム委員及び卒業パーティ委員の活動開始を指導。日本学生支援機構奨学生の決定。ビリヤード部の課外活動功労賞学生表彰の推薦及び表彰規程実施細則見直し。昨年前期末で進路変更したアスペルガー学生が進学先研修施設を終了後就職できたことの報告。ときめき国体競技ボランティアについて。</p> <p>8 月 駐車場ゲート、学生食堂課金システム Edy 検討。</p> <p>9 月 新型インフルエンザ対応について。復帰 S 君の卒業研究開始困難について保護者と協議(12 月に退学した)。通学路帰宅時の変質者出現(9/28 21 時)、被害に遭わないように掲示等により注意喚起。</p> <p>10 月 卒業研究で不適應を起こしている学生が多いことについて個別に悩まず、カウンセリング室、保健室、学生委員会、学部全体での対応を要請。保護者面談会(1, 3 年制保護者対象、5 回目 75 名)実施。新薬祭(10/24, 25)指導。泥酔男子学生中庭寝込み行動への対応と指導。アドバイザーへの感染症罹患状況調査書記載依頼(新型インフルエンザ対応)。</p> <p>11 月 新築改装学生食堂の運用開始と支払いシステム指導。</p> <p>12 月 中退者が増えていることについてその事由とその状況を調査報告。</p> <p>1 月 スキースクール実施(蔵王 1/7～9)。冬季スクールバス(1/8～2/5、20 日間 80 万円)を運行実施。オリコ(学費サポートプラン)提携の件を検討。</p> <p>2 月 次年度カウンセリング日程調整(田中)。学生表彰(学友会活動功労賞)推薦。入学予定者でアスペルガーへの対応要請あり(田中アドバイザー)、出身高校教員(2/23)、本人と父親(2/24)に面接、教員への報告にとどめて開示はせずに様子を見ることとした。退学及び休学についてアドバイザー所見票様式への記載を要請。</p> <p>3 月 クラス編成とアドバイザー貼り付け調整。オリエンテーション日程と担当分担調整。</p> |       |

問題点の提起:

1. 他人とのコミュニケーションが苦手な学生が増えている。このような学生は大学生活の中で孤立して躓きやすい。フォローの仕組みが必要である。
2. 心の健康に問題を抱えている学生が増えている。学生相談体制の充実が望まれる。
3. 学生駐車場が不足している。効率的な駐車場利用と通学手段の検討を要する。
4. 恒常的に問題を抱えている学生が、じっくり相談に乗ってもらえる人と場所がない。

平成22年度の活動目標:

1. 学生相談室の設置を検討する。
2. カウンセリング室を、大学若しくは学園の正式な組織として確立する。
3. ピアサポーターの制度の設置を目指す。

| 委員会名   | 入試委員会 |
|--|-------|
| <p>委員長及び委員氏名:(委員長に◎、記入者氏名に下線)</p> <p>◎<u>武内征司</u>、<u>鰐坂勝美</u>、<u>市川進一</u>、<u>米田照代</u>、<u>佐藤眞治</u>、<u>中村豊</u></p> <p>教務事務入試係:<u>生野昭雄</u>、<u>大井宰</u>、<u>星野恵</u>、<u>斎藤聡</u>、<u>石川善樹</u>、<u>長澤旭晃</u></p>   |       |
| <p>年間の活動:</p> <p>昨年度と同様に、AO入試、指定校推薦・一般推薦入試、I・II・III期入試、センター試験入試A日程・B日程を行った。今年度から、AO入試として「実験とレポート作成試験」を導入した結果、40名が志願した。このうち37名が合格し入学した。今年度入試の特徴は、I期入試の受験生が昨年度より13名減少したが、センター試験入試で18名増加したので、AO入試で増えた分純増となり昨年度に比べて12名、一昨年度に比べても2名増加になったことである。今年度からわが校もセンター試験入試の会場になり、近隣の新津、五泉、新津南高校などの生徒が本学会場で受験した。このことがセンター試験入試の受験生を増やす要因になったのではないかと思われる。</p> <p>受験生を増やすために、オープンキャンパスの取り組みの強化、SPP・SSH・出前授業などの高大連携事業、高校訪問、「熱いメッセージ」の作成・配布などの強化を行ったことが実を結んだものと考えられる。</p> |       |
| <p>問題点の提起:</p> <p>先ず AO入試の「実験とレポート作成試験」については、予想を大幅に上回る受験生があったので、大成功だったと評価される。しかし、今回はほぼ全ての高校で化学の実習時間に実施されている「中和滴定」を選んだので、受験生には馴染みがあり人気を呼んだものと考えられる。しかし、今後別のテーマとして何を選ぶかが難しい問題になると予想される。また、ホームページに実験の「手引きを」公開する仕事と実験の準備、実験の監督と判定をする教員の負担など、問題が残されている。</p> <p>初めてセンター試験の会場になり、ほぼ一年間を通じて全学を挙げて準備をしてきた。そのおかげで、ほとんどトラブルが起こらず、受験生には気持ちよく受験してもらうことが出来た。しかし、そのために、本学独自の入試の広報活動や入試活動が滞った感が否めない。</p>   |       |
| <p>平成22年度の活動目標:</p> <p>今年度の活動をさらに強化するだけでなく、受験生とその保護者や高校の先生に応用生命科学部の特徴の一つである「高い就職率と国公立大学の大学院への高い進学率」を知ってもらう活動を強化する必要がある。このことは、平成20年度「外部評価結果」にも明記されているので、あらゆる方策を講じて宣伝を強化したい。</p> <p>そのためには、テレビ・新聞・雑誌などのメディアを通じての宣伝とともに、本学のホームページを抜本的に改善して、受験生が見て面白いと興味を引き付けるものにする必要がある。</p> <p>宣伝の効果は、その中身に左右されるので、本学部の特徴である高い就職率と大学院進学を引き続き達成するために、就職委員会と協力する。これらの活動を通じて、本年度以上の受験生を獲得するために努力する。</p>   |       |

|  |             |
|--|-------------|
| 委員会名   | 入試委員会(広報関係) |
| <p>委員長及び委員氏名:(委員長に◎、記入者氏名に下線)</p> <p>◎<u>武内征司</u>、<u>鰐坂勝美</u>、<u>市川進一</u>、<u>佐藤真治</u>、<u>米田照代</u>、<u>中村豊</u></p> <p>事務広報課:<u>生野昭雄</u>、<u>大井宰</u>、<u>斎藤聡</u>、<u>星野恵</u>、<u>石川善樹</u>、<u>長澤旭晃</u>、<u>安中奈々</u>、<u>濱田達郎</u>、<u>加藤三郎</u>、<u>田中實</u></p>  |             |
| <p>年間の活動:</p> <p>従来は応用生命科学部広報委員会があったが、薬学部には広報委員会がなかった。そのため、両学部の広報を統一して進めるために、全学的な「広報委員会」を作り、委員長は学長で委員は両学部の入試委員長と入試委員が当たることになった。全学的な広報はこの委員会が行い、各学部独自の広報は従来通り両学部の入試委員会が行うことになった。</p> <p>応用生命科学部では昨年度から始めた「受験生に贈る熱いメッセージ」を作成して、高校訪問などで活用した。また、SPP・SSH など高校側の取り組みだけではなく本学部でも独自の「実験講座」を組織して、高大連携の取り組みを強化した。出前授業や本学を訪問してくる高校生への模擬授業などについては、全ての要請に応じることが出来た。</p>   |             |
| <p>問題点の提起:</p> <p>全学的な広報委員が出来たことによって、両学部が統一して行うべき広報活動、たとえばオープンキャンパスや受験生へのガイダンスなどは、スムーズに進むようになった。しかし、これまで応用生命科学部独自で行ってきた広報活動について予算執行が自由にできなくなり、そのつど広報委員会の許可を受けなければならなくなり、当初は活動に支障をきたした。</p> <p>また、もう一つの問題点は広報事務(入試事務も含めて)メンバーが年度途中の11月に変わったことである。特に、昨年度はセンター入試の初めての実施の年だったので、それまで準備を進めてきたメンバーが入れ替われば仕事が滞るところであった。幸い、センター入試が終了するまで、従来のメンバーが仕事を続けたので大事には至らなかったが、年度途中の再編は実情を踏まえて慎重にやるべきであろう。</p>             |             |
| <p>平成23年度の活動目標:</p> <p>両学部が統一した広報委員会の機能を活かして、テレビ・新聞・雑誌などのメディアでの宣伝を飛躍的に強化して、受験生を増やすことが第一の目標である。</p> <p>小・中・高生の減少と不況の影響もあって、各高校はいかに多くの生徒がセンター入試を受験するか、どれだけ多くの生徒を国公立大学に進学させたかに心血を注いでいる。したがって、本学のような弱小地方私大は生き残りを賭けて激烈な「受験戦争」の渦中にあるといっても過言ではない。</p> <p>したがって、どれだけ多くの受験生にわが校に興味を持ってもらうかがカギである。メディアでの宣伝とともにホームページもリニューアルを図り、受験生の興味を引き付ける内容にする努力をする。そして何よりも、両学部自身の中身のリニューアルを図り、受験生にとって入学したい学部にする必要がある不可欠である。</p> |             |

| 委員会名  | 就職委員会 |
|---|-------|
| 委員長及び委員氏名:(委員長に◎、記入者氏名に下線)<br>◎浦上 弘、鯉坂勝美、川田邦明、佐藤眞治、高久洋暁   |       |
| 年間の活動:<br>3年生を対象とした就職ガイダンスと4年生に対する就活支援が主な活動である。ガイダンスは月に1回のペースで12回行い、これ以外に1日会社見学会、インターンシップ、学内合同企業説明会の開催などである。本年度は、これに企業3社の人事担当者による講演とパネルディスカッションを加えた。また、就職先の企業を招いて、講演会と懇親会を行う「新潟薬科大学交流の会」を開催した。<br>21年度は20年秋のリーマンショックの影響で学生の就職活動は困難を極めた。前年度には94.8%であった内定率が77.9%と大きく落ち込んでしまった。卒業直後に2名の就職が決まったとは言え、これを含めてようやく80%を越えた。厳しい状況は学生の動向にも現れており、エントリーしても面接も至らず不合格となる例が多く、教員からは「今年の学生は動いていない」という声が多く聞かれた。いくつかの企業に問い合わせたところ、前年に比べて首都圏のいわゆる難関校からの受験が増加したと言うことであった。求人事態が減少しただけでなく競合者も増えたため、本学の学生が書類審査の段階で終わってしまったと推測する。                          |       |
| 問題点の提起:<br>就職状況を反映したものであるかどうか断言はできないが、4年生に不登校になるものや精神的に不安定なる者が例年になく多い印象である。4年生の留年と退学が例年より多く、そのような学生のほとんどは就職が決まっていない者であった。その対策としては研究室の教員による学生の観察と指導が最も重要であるが、学生の精神的な支援が必要かもしれない。<br>いわゆる「就業力」に欠けると見受けられる学生が就職活動に苦戦しているのは明らかであった。このような学生への支援を含んだ就職ガイダンスを3年生前期から始めてはいるが、既に遅いのかも知れない。コミュニケーション能力、積極性、自己管理能力などは短期には身につかないものであるが、大学4年間をかけてこれらを育成すべく、カリキュラムを工夫するなどして対処すべきと考える。<br>また、就職が決まらなかったために大学院に進学した学生もおり、博士前期課程2年を修了した後での就職が懸念される。本学の大学院には就職委員会に相当するものがなく、学部の就職委員会が大学院生の就職データの集計などを行っている。そのため就職支援は十分ではなく、大学院生の就職を支援する組織の設置が必要である。 |       |
| 平成22年度の活動目標:<br>内定率の改善が目標である。改善には就職先の開拓、就職ガイダンスなど学生指導の充実がある。学生には地元志向が強いものが多く、特定の企業や業種にこだわるものも多い。このような学生に意識の改革を促すことを行いたい。それとともに、エントリーシートの添削指導、コミュニケーションなどの就業力開発、筆記試験対策なども行ってゆきたい。就職氷河期に対応してガイダンスなどを増やす傾向にあるが、学生にとって過重な負担にならないよう、授業を圧迫することがないよう、ガイダンスの中身を精査して行くべきと考えている。<br>本学では、就職も進学希望しない学生がほとんどいないことは誇るべきことである。これは学生の就職への意識を高めることに成功していること、および学生が安易に就職を諦めない様に指導していることが奏効していると思われる。この指導は維持して行きたい。   |       |

|   |       |
|---|-------|
| 委員会名  | 図書委員会 |
| <p>委員長及び委員氏名:(委員長に◎、記入者氏名に下線)</p> <p>◎<u>三宅紀子</u>、中村 豊、重松 亨</p>   |       |
| <p>年間の活動:</p> <p>両学部の図書委員会と図書館事務で構成する図書館運営委員会を3回開催し、両学部で連携を密にはかった。応用生命科学部の図書委員会については開催せず、必要な事項について電子メールで意見交換を行いながら決定した。学術雑誌の購読についてはアンケートを実施して購入する雑誌を決定した。単行本の購入については前年度から引き続き、薬学部といっしょに図書希望アンケートを実施し、委員会で購入する本を決定した。大学院図書予算については、委員会での協議の結果、学部予算で不足した雑誌購入費を補充、大学院の講義の資料作成に役立つ生命科学系の電子ブックの購読を継続、研究にも役立つ高額な単行本の購入を決定した。</p> |       |
| <p>問題点の提起:</p> <p>ここ数年図書予算削減の努力を続けてきており、かなり減額を達成できている。図書費の大部分を占める学術雑誌の購読については、現教員が限られた予算の中で本当に必要とするものは何かをひとりひとりがしっかり考えるべきであると思われる。学生たち(特に大部分を占める学部生)が日ごろの講義・実習等のための勉強に役立つように単行本についても充実させていく努力はしてきたが、図書でわからないことを調べるということを身につけさせるために、初年次WGと連携して授業の中で課題を調べる演習なども取り入れた。今後、図書館がより利用されるような様々な取組みも必要だと考えられる。</p>                 |       |
| <p>平成22年度の活動目標:</p> <p>年々、各学部の図書委員会単独で検討する必要がある事項は減少してきたことから、全学の委員会である図書館運営委員会とその分科会としての各学部の図書委員会という位置づけで必要な活動を行うこととし、学部別の図書委員会は来年度より廃止することとなった。</p>  |       |



|   |         |
|---|---------|
| 委員会名  | 国際交流委員会 |
| <p>委員長及び委員氏名:(委員長に◎、記入者氏名に下線)</p> <p>◎<u>梨本正之</u>、小西徹也、川田邦明</p>   |         |
| <p>年間の活動:</p> <p>教員の海外出張のための資金援助を行った。</p>                         |         |
| <p>問題点の提起:</p> <p>海外での国際学会において発表した成果が論文として公表されていない場合が多いようである。</p> |         |
| <p>平成22年度の活動目標:</p> <p>過去の論文発表等の業績を考慮して、海外出張のための資金援助を行う予定である。</p> |         |

|  |            |
|--|------------|
| 委員会名   | 共通機器・施設委員会 |
| <p>委員長及び委員氏名:(委員長に◎、記入者氏名に下線)</p> <p>◎<u>石黒 正路</u>、<u>鯉坂 勝美</u>、高久 洋暁、川田 邦明、佐藤 眞治</p>  |            |
| <p>年間の活動:</p> <p>応用生命科学部が主たる使用者である ESR、電子顕微鏡、X 線結晶構造解析装置についての年間保守料を支払った。その他の機器については大きな保守費が発生することはなかった。また、F 棟109室の機器の配置について移動、整理して、スペースを確保して室内を壁にて区切り、このスペースを共通に会議等に使用できる部屋として整備した。</p> |            |
| <p>問題点の提起:</p> <p>薬学部の機器と応用生命科学部の機器を共通に使用するという目標について、次年度から二つの学部の委員会を統合して一括して管理するという方針が確認された。しかし、まだ共通機器としての柔軟性ある運用が実現するための協議はこれからであるため、早期にこれらのことが協議されることが望まれる。</p>                      |            |
| <p>平成22年度の活動目標:</p> <p>共通機器委員会が薬学部と統括された形で運営されることになり、それぞれの学部が使用している機器類の共通利用へのルール作りを行ってゆく。</p> <p>機器の保守料について、より有効にかつ低廉に賄えるような方策を立て、将来的な機器の保守についての展望を確立していく。</p>                         |            |

|   |       |
|---|-------|
| 委員会名  | 防災委員会 |
| <p>委員長及び委員氏名:(委員長に◎、記入者氏名に下線)<br/>◎川田邦明、新井祥生、市川 進一、浦上 弘、中村 豊</p>  |       |
| <p>年間の活動:</p> <p>有機廃液の処理(業者委託)を21年5月28日(処理量2,400ℓ)、9月28日(処理量2,400ℓ)、及び21年1月22日(2,400ℓ)に行った。これにあわせて、ドラム缶の購入と、処理費用及び購入費用の支払いに係る手続きを行った。</p> <p>19年度から、廃液保管用ドラム缶について缶内容物表示用シールとともにドラム缶が満杯であることを示すシールを貼るシステムを継続した。また、ドラム缶12本のうち10本が満杯になった時点で担当者を經由して業者に委託するシステムを、昨年度に試行し、良好な結果が得られた。そこで、今年度はそのまま継続し、処理に至る手続き等を円滑化できた。こうしたシステムを運営するに当たり、必要なシール、記録表等を適宜作成し、廃液保管庫に置いた。</p> <p>廃液の漏出時の対応用としてクリアスピルキット(1セット)を購入した。あわせて、ドラム缶への廃液投入用にロートを購入し、いずれも廃液保管庫に配備した。</p> <p>なお、これまで外部評価において御指摘頂いている防災訓練については、2009年12月1日に、新潟薬科大学および学校法人新潟科学技術学園において、新潟市消防局の協力のもと、消防法に基づく「総合防災訓練」が実施されている。</p> |       |
| <p>問題点の提起:</p> <p>これまでの外部評価において、「利用者(学生・研究者)に対するガイダンスは行わないのか?」とのコメントを頂戴している。利用者については職員に限定(学生については職員の立会のもと職員の責任で利用)しており、今年度も、職員に対して「実験廃液についてのお願い」をメールで配信したが、特に不都合や問題は生じていない。有機溶媒については、廃液処理のみでなく、使用や保管等においても十分な注意が必要であり、学生に対する教育は不可欠である。使用する溶媒は各研究室において様々であるので、廃液処理(ドラム缶への投入)も含めた教育は各研究室で対応されていると思うが、合わせて、定期的な有機溶剤検診などの必要性についても、今後全学的に考えてゆく必要があると考えられる。</p>   |       |
| <p>平成22年度の活動目標:</p> <p>防災訓練、地域との連携、地震等での教育ラインの整備などとともに、防災、環境問題に対する全学的取り組みの必要性について、これまで外部評価においてコメントを頂戴している。これらについては、正に全学的取り組みが必要な事項である。22年度から、新たに全学委員会として「防災安全委員会」を設置することとなった。今後は、防災訓練等を含め、よりの確かな対応がとれるものと考えている。また、合わせてコメントを頂戴している委員人数の削減についても、「防災安全委員会」に参加する応用生命科学部の教員数を削減することにより対応したいと考えている。</p>   |       |

# 全学委員会

|   |               |
|---|---------------|
| 委員会名  | ホームページ（HP）委員会 |
| 委員長及び委員氏名：(委員長に◎、記入者氏名に下線)<br>◎ <u>中村辰之介</u> 、中村 豊、斎藤 聡   |               |
| 年間の活動：<br><br>本委員会は平成 18 年度から立ち上がり、当初は HP の書き換えを業者に委託していたが、平成 20 年夏からは、薬大事務部で HP の書き換えができるようになった。<br>平成 21 年秋までは、毎月委員会を開催して、薬科大学 HP をより良くするための方策や、Yahoo や Google 検索の順位を監視し、下位に落ちないように、上位にのぼるよう算段した。 |               |
| データーの解析：<br>(Cyber-Campus のページビュー(以下 PV)数を除いた)ページビュー数は 07 年 4 月 6 万 8 千、08 年 4 月 10 万 4 千、09 年 4 月 17 万 7 千ページと増加傾向である。<br>Cyber-Campus のページビュー数も 08 年 4 月 1,826PV から 09 年 4 月 4,100PV へ増加している。     |               |
| 問題点の提起：<br><br>高校生が受験のための情報を得るために用いる一番使われる場所が、各大学の HP であると言われている。HP は常に新しく、見やすく、内容を充実してゆかなければならない。そのためには、現在の人的資源では不十分である。来年から、HP 委員会は大学広報委員会に吸収され、新たな切り口でより良い HP にしていく必要がある。                        |               |

|  |             |
|--|-------------|
| 委員会名   | ハラスメント防止委員会 |
| <p>委員長及び委員氏名:(委員長に◎、記入者氏名に下線)</p> <p>◎長友 孝文(学生部長)、北川 幸己、<u>平岡 昇</u>、鈴木 正利、太田 達夫、飯村 菜穂子、長越 暁子、矢部 典子</p>   |             |
| <p>年間の活動:</p> <p>平成20年度には、「学校法人新潟科学技術学園ハラスメント防止等に関する規程」および「学校法人新潟科学技術学園ハラスメントに係る懲戒処分ガイドライン」が制定され、ハラスメント対策リーフレットが承認された。これまではセクシャルハラスメントの規程だったので、学園としてのハラスメント規程が一応整った。これを受けて大学のハラスメント防止規程も整備された。平成21年度学生便覧にはこれらの新しい規程に基づいてセクシャルハラスメントだけでなくアカデミックハラスメントおよびパワーハラスメント防止に関する手引並びに相談窓口を掲載した。</p> <p>今年度後半には実際にハラスメントに関する相談が寄せられ、解決に向けて具体的な行動が開始された。</p> |             |
| <p>問題点の提起:</p> <p>ハラスメントに関する規程は制定されたが、さらに細部の基準などの検討が必要である。</p> <p>今年度から委員会予算が計上されたが、具体的な啓蒙活動が極めて不十分であった。ハラスメントに関する理解を深めるために講演会、啓蒙DVDの活用など継続的な活動をしなければならない。また、ハラスメントが発生した場合の相談、調査、解決法の模索などの過程は経験の蓄積を要することも多いので、担当者の研修も検討の余地がある。</p>   |             |
| <p>平成22年度の活動目標:</p> <p>ハラスメント防止の観点から具体的な啓蒙活動を立案して実施する。</p> <p>実際に寄せられている案件については、大学、学園と協調しながら解決への道筋を探る。</p>   |             |

|  |                 |
|--|-----------------|
| 委員会名   | 大学入試センター試験実施委員会 |
| <p>委員長及び委員氏名:(委員長に◎、記入者氏名に下線)</p> <p>◎山崎幹夫 (薬学部)北川幸己、中村辰之介、本多政宣、酒巻利行<br/> (応用生命科学部)平岡昇、武内征司、鯉坂勝美、中村豊<br/> (事務部)鈴木正利、大井宰、長澤旭晃</p>   |                 |
| <p>年間の活動:</p> <p><u>大学入試センター試験連合会議(6/15)</u>にて、平成 21 年度から新潟県立大学が新設されたことを受け、①新潟県内の区分を変更して平成 20 年度まで実施してきた新潟大学と本学との共同実施を廃止すること、②平成 22 年度大学入試センター試験からは本学と新潟県立大学は共同実施とし、新潟医療福祉大学と隔年実施することが正式決定された。</p> <p>今年度は本学を試験場として新潟県立大学と共同で実施することが決定したことから、<u>部局長会(6/26)</u>で、① 学長を責任者とした大学入試センター試験実施のための大学入試センター試験委員会を設置すること、② 本学・新潟県立大学・新潟医療福祉大学の 3 大学で協議して協定書を作成すること等を確認した。</p> <p><u>第1回大学入試センター試験委員会(9/2)</u>にて大学入試センター試験委員会委員の選出について協議され、本部長を学長、副本部長を両学部長、本部委員を薬学部入試委員長ほか 2 名、応用生命科学部入試委員長ほか 2 名で構成することが了承され、以下のように構成員(試験実施本部員)を決定した。</p> <p><u>本部長</u> :山崎学長<br/> <u>副本部長</u>:北川薬学部長、平岡応用生命科学部長<br/> <u>本部員</u> :薬学部: 中村(辰)入試委員長、本多入試委員、酒巻入試委員<br/> 応用生命科学部:武内入試委員長、鯉坂入試委員、中村(豊)入試委員<br/> <u>事務局本部員</u>:鈴木事務部長代理、大井入試広報課長、長澤入試広報課員<br/> 新潟県立大学:2名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>試験実施要目・監督要領・輸送要領等のマニュアルは本学会場に合わせて作成する必要があることから、その作成を本多、鯉坂、酒巻、中村(豊)、大井、長澤各委員が担当した。</li> <li>文部科学省及び大学入試センターよりの通知で、<u>新型インフルエンザ発生に伴う対応説明会</u>が開催された。新型インフルエンザ対応のため、平成 22 年度センター試験の追試験日程が平成 22 年 1 月 30・31 に変更となり、試験場も各都道府県ごとに設置することとなった。本学もインフルエンザ様症状のある受験者への対応要領を作成し、担当者全員に配付して対応することとした。</li> <li>試験室をB棟 2 階 3 階の 4 試験室、受験生総数 449 名と決定し、本部員 25 名、試験監督者及び待機監督者 31 名、リスニング補助 10 名、連絡(警備)員 45 名の合計 111 名体制で実施することとし、各業務担当者の配置についても検討を開始した。(新潟県立大学からの担当数は本部員 2 名、試験監督者 6 名、連絡(警備)員 4 名)</li> </ul> <p><u>大学入試センター試験委員会(12/10)</u>で試験実施要目・監督要領・輸送要領等の各マニュアルについて確認を行った。また、監督者説明会等の開催日時と説明担当者を以下のように決定した。</p> |                 |

監督者説明会:平成 21 年 12 月 25 日(金)15:30～ B101 (本多委員、大井委員)

本部員説明会:平成 22 年 1 月 6 日(水)10:00～ B203 (本多委員、大井委員)

連絡(警備)員説明会:平成 22 年 1 月 6 日(水)11:00～ (本多委員、中村(豊)委員、大井委員)

リスニングテスト説明会(リスニング予行演習を含む):平成 22 年 1 月 13 日(水)16:00～(本多委員)

◎ 平成 22 年度大学入試センター試験

実施日:平成 22 年 1 月 16 日(土)、17 日(日)

449 名の受験生の会場として実施したが、特別な問題もなく無事に終了することができた。

問題点の提起:

今回、本学を試験会場として初めて大学入試センター試験を実施して大きな問題点もなく無事遂行できた。次回以降に向けて全日程終了後、大学入試センター試験委員会を開催し、本部員による問題点・反省点等を協議し、担当した全教職員に試験監督業務・連絡(警備)業務・駐車場誘導業務・連絡方法・その他に関するアンケート調査を実施した。このアンケートで寄せられた意見を集約して、次回以降の開催にあたって実施計画を作成する際の参考とすることとしている。

特に駐車場誘導等の外回りを担当した教職員に対してはアンケートだけではなく、次回に向けた意見や改善案を直接ヒアリングする会議を開催(2/10)した。

|   |          |
|---|----------|
| 委員会名  | 図書館運営委員会 |
| <p>委員長及び委員氏名:(委員長に◎、記入者氏名に下線)</p> <p>◎<u>武内征司</u>(図書館長)、大野 智、皆川信子、星名賢之助(以上、薬学部)、三宅紀子、中村 豊、重松亨(以上、応用生命科学部)、白鳥 寛、大井宰、瀧澤紀子、五十嵐芳美(図書館)</p>  |          |
| <p>年間の活動:</p> <p>外国雑誌の電子ジャーナル化は前年度に完了し、利用者は研究室等、学内で365日24時間利用できるようになっている。今年度も雑誌の購入についてアンケートを行い、購入している雑誌の見直しを行った。前年度に引き続き、文部科学省からの補助金(教育・学習方法等改善支援)を用いて、時間外開館を実施し、利用者の便を図っている。一方、蔵書点検も引き続き行った。</p> <p>今まで、紙媒体のみだった相互貸借の学内申込みを、電子メールでも行えるようにした。図書館まで来なくとも、研究室から複写、借用の申込みができるようになり、サービスが向上した。また、平成20年度に比べて、文献複写の申込み件数は42%増加した。</p> <p>平成20年度に比べ入館者数は若干減ったが、薬学部の6年制により、薬剤師国家試験受験の4年生がほとんどいなかったこと、2月と3月は土曜日、祝祭日開館を行わなかったこと、3年生が研究室に配属となり、研究室で勉強をするようになったためと思われる。</p> <p>応用生命科学部で、1年生等を二つのクラスに分けて、検索の仕方や、図書館の概要を説明する「図書館講習」を授業の一コマとして行った。また、両学部の新入生全員を対象としたガイダンスなども行った。</p> <p>8月末には、日本薬学図書館協議会研究集会を当館主宰で行った。1日目は本学で行い、2日目はホテル日航新潟で行った。</p> |          |
| <p>問題点の提起:</p> <p>入館者数、外部利用者数ともに昨年度に比べ若干減っている。外部利用者については広報が足りないのが原因と思われる。学内利用者の場合は外国雑誌が電子ジャーナル化され、図書館に来なくても閲覧できるようになったことや文献複写申込みがメールでもできるようになったことも入館者数減少の要因としてあると思われる。</p> <p>定期試験期間中は閲覧室の利用者が増えるが、普段は目に見えて減る。1、2年生がもっと図書館で学習したり、参考図書や資料を探してレポートを書いたりする場になるようにするにはどうしたらよいか。普段あまり図書館を利用しない学生にとっても魅力のあるものになるようにすることも課題である。</p> <p>一方、学部生が卒論等のために図書館を利用する機会が増えたが、今後更に学部生の卒論や院生の研究活動の支援のためには図書館はどうしたらよいかを今後も引き続いて考えていく必要がある。</p>  |          |
| <p>平成22年度の活動目標:</p> <p>①社会的貢献という観点から外部利用者へのサービス(資料の貸出等)のPRしていく。</p> <p>②外国雑誌、国内雑誌について、研究の内容の変更に合わせて教員へアンケートを実施し、見直しを行う。学生の関心がある専門的な国内雑誌を導入していく。</p> <p>③昨年度に引き続き、学生が図書館で静かに勉強する習慣を身につけさせるには、どうしたらよいかという問題に取り組む。また、利用者を増やすべく対策を考える。</p> <p>④新潟県内や、薬学系の大学図書館と連携、情報交換等をしてサービス等の更なる向上に努めていく。</p>  |          |



## 平成 21 年度新潟薬科大学図書館運営委員会等行事

### 第 1 回 図書館運営委員会

- 日 時 : 平成 21 年 5 月 12 日 (火) 午後 3 時 00 分から  
場 所 : A 棟 3 階 第二会議室  
出席者 : 武内征司 (図書館長)  
薬学部 : 大野智、皆川信子、星名賢之助  
応用生命科学部 : 三宅紀子  
図書館 : 白鳥寛、瀧澤紀子 (書記)
- 議 題 : (1) 平成 20 年度決算について  
(2) 平成 21 年度予算について  
(3) 雑誌等アンケートについて  
(4) その他

### 第 2 回 図書館運営委員会

- 日 時 : 平成 21 年 9 月 29 日 (火) 午前 10 時 00 分から  
場 所 : J 棟 1 階 図書館事務室  
出席者 : 武内征司 (図書館長)  
薬学部 : 大野智、星名賢之助  
応用生命科学部 : 三宅紀子、中村豊、重松亨  
図書館 : 白鳥寛、瀧澤紀子 (書記)
- 議 題 : (1) 外国雑誌等のアンケート結果について  
(2) 図書館の規程等について  
(3) その他

### 平成 21 年度日本薬学図書館協議会定期総会 館長・司書および主務者会議

- 日 時 : 平成 21 年 6 月 19 日 (金)  
会 場 : パレスサイドビル (東京)  
出席者 : 武内征司 (図書館長)、白鳥寛

平成 21 年新潟県図書館等情報ネットワーク推進連絡会議

日 時 : 平成 21 年 6 月 24 日 (水)

会 場 : 新潟県立図書館

出席者 : 白鳥寛

平成 21 年度新潟県大学図書館協議会総会

日 時 : 平成 21 年 7 月 8 日 (水)

会 場 : 新潟経営大学

出席者 : 武内征司 (図書館長)、白鳥寛

平成 21 年度日本薬学図書館協議会研究集会

日 時 : 平成 21 年 8 月 27 日 (木)、8 月 28 日 (金)

会 場 : 新潟薬科大学、ホテル日航新潟

出席者 : 武内征司 (図書館長)、白鳥寛、瀧澤紀子、五十嵐芳美

日本医学図書館協会・日本薬学図書館協議会向け電子ジャーナル・コンソーシアム説明会

日 時 : 平成 21 年 9 月 11 日 (金)

会 場 : 日本科学未来館 (東京)

出席者 : 白鳥寛

応用生命科学部 コミュニケーション論A 資料収集方法 (図書館での文献検索方法)

日 時 : 平成 21 年 6 月 30 日 (火)

場 所 : 本学 (情報実習室)

担当者 : 白鳥寛、瀧澤紀子、五十嵐芳美

## 平成 21 年度新潟薬科大学図書館の主な出来事

1. 平成 21 年度に続き、私立大学等経常費補助の教育・学習方法等改善支援で補助金を受け時間外開館と蔵書点検を行った。  
課題名：時間外開館による学生の学習、外部利用者の生涯学習、研究支援と蔵書点検  
3 年間で、合計 7,350 千円
2. 高度化情報化推進：平成 21 年度私立大学等経常費補助金特別補助対象事業（ICT 活用教育支援）で補助金を受けた。  
ICT 活用教育支援（電子ジャーナル、データベース等） 45,629 千円
3. 平成 21 年度日本薬学図書館協議会研究集会を主宰し、40 名余りの参加があった。  
日 時：平成 21 年 8 月 27 日（木）、8 月 28 日（金）  
場 所：27 日は新潟薬科大学、28 日はホテル日航新潟  
出席者：薬科系、医療系大学図書館職員、製薬企業図書室職員、日本薬学図書館協議会加盟機関職員
4. 学内で、教職員、学生、院生向けに各種講習会を開催し、外部からの参加者も数名あった。  
データベース講習会：平成 21 年 10 月 2 日（金）  
講 師：ユサコ 木村典広氏  
講習内容：医中誌  
PubMed  
Web of Science
5. 新棟（H棟）の書庫増設と書架設置を行った。
6. 学生に対して、ノートパソコン 40 台の貸出し（当日限り）を開始した。

|  |         |
|--|---------|
| 委員会名   | 倫理審査委員会 |
| <p>委員長及び委員氏名:(委員長に◎、記入者氏名に下線)</p> <p>◎<u>平山匡男</u>、浦上 弘、尾崎昌宣、渡邊賢一、鈴木正利、豊島宗厚(学外委員)、小林一三(学外委員)、<br/>継田雅美(学外委員)、春日忠男(学外委員)</p>   |         |
| <p>年間の活動:</p> <p>平成 21 年 3 月 1 日に制定された本学規程について、具体的な事例を検討・審査する以前に、厚労省の指針を理解を進めるための啓蒙が主たる活動であった。</p> <p>具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 本学の倫理審査の対象となる試験の範囲、試験チームの構成要員(代表者、責任医師、担当医師など)、被験者の募集・選定法、安全性の担保と補償の方法などについて、情報を収集し、現状に相応する運用システムを検討した。</li> <li>2) 2 件の審査の打診があったが、いずれも厚労省の指針をクリアするものではなく、委員会開催には至らなかった。</li> <li>3) 本学の倫理審査の対象となる試験の範囲と審査基準について、厚労省の指針も含めて学内に情報提供する必要性があり、その検討に入った。</li> </ol> |         |
| <p>問題点の提起:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 厚労省の倫理審査指針がより厳しく運用になってきている現実、理解と対応が十分ではないのが現実であった。⇒ 理解活動を進め、対応するシステムを構築することに努力する(活動の1, 3)。</li> <li>2. 本試験はヒトの人権に係わることであり、法的な判断が必要とされる内容を多く含む。従って、最終的には弁護士の判断が必須となることの理解を勧める。</li> </ol>  |         |
| <p>平成22年度の活動目標:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本学の倫理審査の対象となる試験の範囲、試験チームの構成要員(代表者、責任医師、担当医師など)、被験者の選定法、安全性の担保と補償の方法などについて、本学に適した認可のガイドラインを設定する。</li> <li>2. そのガイドラインについて、厚労省の指針も含めて学内に情報提供を行う。</li> <li>3. 審査申請案件があれば具体的な審査を行う。</li> </ol>   |         |

# センター(全学)

| 委員会名  | 産官学連携推進センター運営委員会 |
|---|------------------|
| <p>委員長 (○印) 及び委員氏名：</p> <p>センター長 小西 徹也 (応用生命科学部)</p> <p>運営委員 (薬学部) 渡邊 賢一、高中 紘一郎<br/>(応用生命科学部) 浦上 弘、平山 匡男、川田 邦明</p> <p>大学知財管理アドバイザー 浦田 雄次 (客員教授)</p> <p>事務部 茂木 弘邦、渡辺 健太郎</p>   |                  |
| <p>年間の活動：</p> <p><u>1. 企業等からの問い合わせ対応</u></p> <p>受付件数 (相談申込フォームによる)・・・10件<br/>(内訳) 個別相談会の開催 (5件)、共同研究契約の締結 (2件)<br/>受託研究契約の締結 (1件)、MTA契約の締結 (1件)<br/>特別研究員の受入 (1件)</p> <p><u>2. 共同研究プロジェクト等の推進</u></p> <p>①公的機関によるプロジェクト・・・4件<br/>(内訳) (独) 農業・食品産技総研機構 (1件)、<br/>(独) 科学技術振興機構 (2件)、新潟市 (1件)</p> <p>②一般企業との共同プロジェクト・・・4件<br/>【プロジェクト一例 (研究タイトルのみ)】<br/>「堆肥発酵法による六価クロム還元処理を応用したコンクリートスラッジの再資源化」<br/>「生活改善機能食品素材としてのトリフの特性の科学的実証とその応用」<br/>「多糖類を原料とする微生物低減性を有する食品洗浄剤の開発」など</p> <p><u>3. その他の産官学連携活動</u></p> <p>①特定非営利活動法人化合物活用センターと連携を開始した。(09/07/08)<br/>本学と法人化合物活用センターとの間で「化合物活用に関する契約」を締結した。この契約は、学内で眠っている有機化合物を多くの企業等に有効に活用してもらうことを目的に、同センターの持つデータベースに学内の有機化合物を登録し、希望のあった企業等へ提供するものである。</p> <p>②(独) 科学技術振興機構知的財産戦略センターと連携を開始した。(09/08/17)</p> |                  |

本学と JST 知的財産戦略センターとの間で「特許相談業務に係わる連携協定（確認書）」を取り交わした。この協定は、同センターの特許主任調査員が「知財啓蒙活動」「発明の発掘」「先行技術文献等調査」「特許性評価」等を通じて、本学における発明活動・特許化をサポートするものである。なお、学内研究者の単独発明のみならず、企業等との共同発明に対しても同様のサポートを受けることが可能である。

③「Healthy Kitchens in 新潟 2009 ～新潟“賢食”コンファレンス～」を開催した。(09/11/21)  
日本私立学校振興・共済事業団の補助を受けて発足した「食と健康に関する研究連携コンソーシアム」の活動として、本学（拠点校）、新潟県立大学、新潟医療福祉大学、新潟大学、新潟バイオリサーチパーク（株）が中心となって開催された。今回は「幼児と食」がテーマに選定され、保育士や栄養士、教育学部の学生や食品関連企業の方々など、幼児の食育を担う専門家が数多く集まった。（当日の様子は、新潟日報朝刊（09/12/12）にも掲載された。）

④新潟バイオリサーチパーク（株）と連携し、「品質管理者・開発担当者向け実務者講習会」を開催した。(09/11/28)

このイベントは、新潟バイオリサーチパーク（株）主催のもと、経済産業省の支援を受けて「新潟市地域バイオ活性化人材養成等事業」として実施されたものである。

当日は、食品製造業の事業高度化・高付加価値化を図ることを目的に、主に県内企業から多数の方々の参加があった。本学からは、応用生命科学部浦上教授、平山教授、小西教授等が講師として参加した。

⑤「広域産学交流ネットワーク in 長野」に参加した。(09/12/03)

このイベントは、長野県内の産学連携技術開発を促進すること目的として、(財)長野テクノ財団が中心となって開催された。

当日は、本学の他に東北大学、名古屋大学、東京理科大学、早稲田大学が参加し、産学連携による研究開発を目指す企業や行政、商工支援機関等の方を対象に「産学連携支援体制」（茂木産官学連携スタッフ）と「研究シーズ」（小西センター長）を発表した。

⑥前年度に引き続き、知的財産管理ワーキンググループを開催し、先述の3②の知的財産管理体制の在り方や発明規程等の関連ルールの見直しを精力的に開催した。

他には、新潟市産官学連携協議会への参加等、行政との定期連携を進めた。

#### 問題点の提起：

学外からの研究相談件数の増加に伴い、迅速な対応処理を行う事が大学の社会的な評価、信用度の強化につながる所以对外的なサービス機能を充実するための研究スタッフの確保等必要な体制整備が必要と思われる。（学内体制として処理を迅速に行えないケースがみられたものの、研究スタッフの確保など必要な体制整備がとれなかった。）

今後は、本センターが研究プロジェクトや外部資金獲得の調整機関として必要な人員配置を求めていくと共に、学外から寄せられる研究シーズの照会に迅速に対応できるよう、教員の研究関係資料の蓄積を図るとともに、学内研究者（を進めなければならない。そして、学内教員）がより積極的に本センターを活用できるよう、学内外への情報発信に努めていく。

## 施設・管理(全学)

|   |       |
|---|-------|
| 委員会名  | IT委員会 |
| <p>委員長及び委員氏名:(委員長に◎、記入者氏名に下線)</p> <p>◎<u>米田 照代</u>、浦上 弘、高橋 歩、浅田 真一、福本 恭子、神田 循吉、<br/>武内(図書)、白鳥(図書)、加藤(本部)、生野(事務)→8月変更 川崎(事務)</p>   |       |
| <p>年間の活動:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報実習室管理</li> <li>・ウイルス対策 USBワーム検疫の実施</li> <li>・情報ネットワーク利用ポリシー・セキュリティポリシーの制定</li> </ul>  |       |
| <p>問題点の提起:</p> <p>・両学部が新津キャンパスで活動を始めてから、情報処理装置やその運営に関して委員会として活動を行って来ました。今年度でICT活用推進事業が終了し、回線使用料やソフトウェアの包括契約についての費用を委員会活動費として来年度の委員会予算に計上の予定です。しかしながら、①近年電話回線等と同様にインフラとも呼べるようになった情報処理装置に関する維持経費及び運営費を委員会活動費として扱い続けるのか、また、②IT委員会とは別に管理運営に関する別の組織を設けるのか(ex.実験動物施設と動物実験委員会が別組織として存在)の検討が必要な時期にさしかかってきたと思われます。</p> |       |
| <p>平成22年度の活動目標:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポータルサイトの導入について両学部の足並みがそろそろよう進める。</li> <li>・無線LANアクセスルータ設置に関する指針の作成を行う。</li> <li>・IT関連各種規程の整備を行う。</li> </ul>   |       |

|  |             |
|--|-------------|
| 委員会名   | 体育施設管理運営委員会 |
| <p>委員長(○印)及び委員氏名:</p> <p>○高橋努(体育施設管理責任者)<br/> (薬学部)尾崎昌宣、本澤忍<br/> (応用生命科学部)太田達夫、中村豊</p>   |             |
| <p>年間の活動:</p> <p>本委員会、事務部学生課と連携して、学友会、サークル、一般学生の協力により、大きな事故、苦情、トラブルもなく、円滑に体育施設を管理運営しました。</p> <p>また、予算執行は、平成20年度に法人本部の管財課から本委員会に移行され、本委員会の仕事量は大変増えましたが、学生の要望等に対して適切に、迅速に対応ができ、良い運営ができています。</p>  |             |
| <p>問題点の提起:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) テニスコート、グラウンドにナイター照明を設置する。</li> <li>(2) 体育館に冷暖房、更衣室に冷房の設備を設置する。</li> <li>(3) 体育館、トレーニング室、グラウンド、テニスコートの体育施設に放送・映像機器設備を設置する。</li> <li>(4) 第2体育館を新設する。</li> <li>(5) 関連規程について見直しをする。</li> </ol> |             |



|  |            |
|--|------------|
| 委員会名   | 放射線安全管理委員会 |
| <p>委員長(○印)及び委員氏名:<br/>○安藤昌幸、宮本昌彦、梨本正之、新井祥生、鈴木正利、君川尚幸</p>   |            |
| <p>年間の活動:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4月 特殊健康診断、教育訓練。</li> <li>5月 RI 施設、RI 廃棄物搬出。</li> <li>8月 平成20年度放射性同位元素管理状況報告書提出。</li> <li>9月 RI 施設および X 線発生機器、定期点検。</li> <li>10月 特殊健康診断。</li> <li>3月 RI 施設および X 線発生機器、定期点検。</li> <li>3月 RI 施設「管理下でない放射性同位元素等の一斉点検」実施。<br/>(RI 施設以外は、翌4月に学内で一斉に実施予定)</li> </ul> <p>注:RI 施設の毎月度の点検、清掃、汚染・作業環境測定は、RI利用施設運営委員会が実施した。</p>   |            |
| <p>問題点の提起:</p> <p>放射線安全管理委員会は、新潟薬科大学の RI 利用施設及びエックス線発生装置の、施設、装置、使用者を主な管理対象とする大学の委員会である。使用者の安全性を確保することと、放射線関連事案による新潟薬科大学のブランドイメージ低下(特に近隣住民に対して)を防止することを最大の目的とし、関連する法令や学内規程を順守して管理活動を行っている。</p> <p>RI 利用施設本体は、新築後の利用開始(2006 年度)から3年以上を経て初期トラブルはほぼ完全に解決し、安定的に運用されている。その一方、一部の装置や機器の経年劣化が問題となっており、たとえば前年度に液体シンチレーションカウンターの更新(予算規模約 900 万円)を行った。想定外の機器や施設の修繕や更新に、単年度予算方式では迅速に対応できない場合もあるため、この点は注意すべきである。</p> <p>特殊健康診断における診断項目の抜け(聴力)や、管理状況報告書の提出が期限後になるなど、形式的ではあるが法令が遵守できなかった事案があり、再発防止に努めたい。</p> <p>今後は、安全性を確保しつつ、RI 施設および X 線発生装置の利用を増やし、大学の教育研究への貢献を高めていくことが重要な課題であると考えている。</p> |            |

|   |               |
|---|---------------|
| 委員会名  | R I 利用施設運営委員会 |
| <p>委員長(○印)及び委員氏名:</p> <p>○安藤昌幸*、宮本昌彦*、梨本正之、新井祥生、鈴木正利、君川尚幸、高久洋暁*、西田浩志*、渡辺賢一、浅田真一*、大貫敏男*</p> <p>*:防災委員(緊急時対応と月度の汚染・環境測定および清掃を担当)</p>  |               |
| <p>年間の活動:</p> <p>4月 教育訓練。</p> <p>毎月度 施設内外の汚染・環境測定。</p> <p>毎月度 施設清掃。</p> <p>緊急時(地震あるいは火災等)の参集は、本年度はなかった。</p>   |               |
| <p>問題点の提起:</p> <p>RI(放射性同位元素)利用施設運営委員会は、新潟薬科大学のRI利用施設の保守管理業務、教育研究業務などの遂行を目的とする大学の委員会である。放射線安全管理委員に加えて、RI利用研究室の責任者が委員となっており、主な委員会活動は、6名の防災委員により行われている。</p> <p>防災委員は、多大な研究教育活動や他の学務に加えて本委員会活動を行っており、所属研究室のRI適正使用の責任も負っているため、負担は少なくない。委員自らが行うRIを利用した教育研究に伴う応分の義務を負うのは当然であるが、それ以外について、委員会活動の効率化などによる負担の軽減が重要な課題であると考えている。</p> <p>次年度以降、汚染・環境測定を業者に委託する予定である。委員の負担軽減のみならず、測定に使用する機器の信頼性保証(機器バリデーション)や、法に則った測定、記録、保管を確実に行うという観点からも、適切な措置と考える。</p> |               |

|  |         |
|--|---------|
| 委員会名   | 動物実験委員会 |
| <p>委員長(○印)及び委員氏名:</p> <p>○ 尾崎 昌宣(実験動物施設長)(薬)、渡邊 賢一(薬)、若林 広行(薬)、佐藤 眞治(応)、市川 進一(応)、三宅 紀子(応)</p>  |         |
| <p>年間の活動:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 実験動物施設の日常管理、清掃、廃棄</li> <li>2 新規程についての利用者講習会の開催</li> <li>3 慰霊祭の開催</li> <li>4 内外の個人、組織、団体からの問い合わせ、連絡、情報に対する広報及び授受・応答</li> <li>5 公私立大学実験動物施設協議会との連絡</li> </ol>   |         |
| <p>問題点の提起:</p> <p>日常の管理業務が第一であり、利用者に快適・清潔かつ便利に、利用者の負担を出来るだけ少なく利用できるように心がけている。日常の管理は、各利用者の責任により動物の飼育・管理がなされているが、個人によってそのハードルが異り、必ずしも統一されていない。現在、清掃当番は各研究室毎に決めているが、利用者の負担を軽くするため、施設長が定期的に清掃・片づけ作業を行っている。共同の場合は、ハードルの相違が各人の利用を難しくしたり、室内環境の悪化を招くことから、特に清潔上一定のレベルを保つためには、これらの作業を行う人員の確保・配置が必要である。そのための経費が必要であるが、使用動物、飼料については既に自己負担(受益者負担)でまかなわれており、屍体の廃棄、洗剤、白衣の洗濯、ケージ補修、ラベル、ビニール袋、給水フィルター・ノズルなどの受益者負担分の分割識別が難しいものは、共通費用でまかなっている。したがって、受益者負担により算出される額を作業員等の人件費にあてることは難しい。この解決策として、利用研究室以外に、大学院生のアルバイト補助を雇用することも考えられる。</p> <p>上記の日常業務に加え、本年度は、文部科学省によって提示された基準・規程に基づいた新規程の運用を開始し1年が経過したが、この運用の円滑な運営に関していくつかの問題点があり、実験実施者にとって不便なことがいくつか明らかになってきた。特に、動物実験計画書の提出と実験実施日が急迫することが多く、実験遂行に支障がでることがある。また、実験は継続するもので、その都度提出する事務作業も頻回となり、利用者の負担がいっそう大きくなった。このような負担を少なくし利用しやすくすることを念頭において、速やかに運用を進めていくためには、本学の実情に沿った独自の方法を考案することを継続する必要があるだろう。</p> <p>これらを改善するためには、委員会以外に、利用者を中心とした別の組織も必要であるかもしれない。</p> |         |

|  |               |
|--|---------------|
| 委員会名   | 組換えDNA実験安全委員会 |
| <p>委員長及び委員氏名:(委員長に◎、記入者氏名に下線)</p> <p>◎<u>高久洋暁</u>、市川進一</p>                     |               |
| <p>年間の活動:</p> <p>特に、各研究室、実習室において、遺伝子組換え実験の問題は起こらなかったため、大きな活動はなかった。</p>         |               |
| <p>問題点の提起:</p> <p>遺伝子組換え実験の使用期限期日などの通知を毎年度行い、1年に1回は確認を行うことが必要と思われる。</p>        |               |
| <p>平成22年度の活動目標:</p> <p>平成22年度より、薬学部と統合され、大学全体委員かとして発足する予定になっており、その規則に準拠する。</p> |               |

|   |             |
|---|-------------|
| 委員会名  | 病原体等安全管理委員会 |
| <p>委員長及び委員氏名:(委員長に◎、記入者氏名に下線)</p> <p>◎ <u>太田 達夫</u>、 浦上 弘、 小長谷 幸史、 福原 正博、 山口 利男</p>   |             |
| <p>年間の活動:</p> <p>6月30日、厚生労働省、警察庁及び秋葉警察署の7名による感染症予防法36条による立ち入り検査を受けた。感染症法改正(2006年)を受け本学に病原体等安全管理規程(2009年)が制定されたが、その実施状況の立ち入り査察である。10時より開始し、午前中に厚生労働省から法改正の趣旨と病原体等についての説明があり、現状について聴取があった。午後から現場視察と個別に細かく質疑応答が行われ、最後に立ち入り検査直後の指導があり、15:50に終了した。3年に1度くらい立ち入り検査を行うということである。</p> <p>6月上旬に、上記立ち入り検査のための資料のとりまとめを行った。</p> <p>管理区使用者の教育訓練(4,9月)、管理区域の運営及び病原体等の管理。</p>   |             |
| <p>問題点の提起:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生物兵器などに使われる病原体等の安全保管(バイオセキュリティ)が主目的であり、盗難防止体制と設備が強く求められ、学生の出入りする研究室としては管理が難しい。</li> <li>2. 管理区域の整備概ね完了したが、実際に実験室を使用するにあたり、利用者に不便な部分がある。規程と照らし合わせながら利用者の意見を聞いて改善できる部分は改善すべきである。</li> <li>3. 火事や地震のときの非常時対応などについて、予めシミュレーションし、訓練が必要である。</li> <li>4. 管理区域に避難用シュート(オリロー)があるが、これは管理区域内にあっても用をなさないので移設を検討すべきである。</li> <li>5. 法に定める病原体等を用いる研究者が学内に少なく、管理委員会を運営するのが難しい。</li> </ol> |             |
| <p>平成22年度の活動目標:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育訓練の内容の点検と必要な改訂。</li> <li>2. 定期的な機器及び記載帳簿の点検とその点検計画の見直し。</li> <li>3. 定期的な委員会の開催。</li> </ol>  |             |

# 研究科の委員会

|  |          |
|--|----------|
| 委員会名   | 研究科入試委員会 |
| 委員長及び委員氏名:(委員長に◎、記入者氏名に下線)<br>平山匡男、石黒正路、米田照代、◎ <u>重松 亨</u>   |          |
| 年間の活動:<br>1. 募集要項を下記のように修正した。<br>・アドミッションポリシーを記載した。<br>・募集要項と学則の記載を整理した。<br>・博士後期課程の入学願書の様式を修正した。<br>2. 大学院博士前期課程の入試を、推薦および一次は9月4日に、二次試験は3月3日にそれぞれ実施した。<br>3. 大学院博士後期課程の入試を、3月3日に実施した。 |          |
| 問題点の提起:<br>昨年度同様、面接には各研究室から教員1名以上が臨席し行ったが、受験者が多く、1人当たりにかかる面接時間が短くなった。面接の方法について、より効果的な方法を検討する必要がある。<br>広報について、ホームページに掲載する方法で入試情報を周知したが、不十分であると考えられる。                                    |          |
| 平成22年度の活動目標:<br>1. 大学院の広報の体制および方法について、さらに検討する。<br>2. 入試、特に面接試験の方法について検討する。   |          |

|  |                 |
|--|-----------------|
| 委員会名   | <b>研究科教務委員会</b> |
| <p>委員長及び委員氏名:(委員長に◎、記入者氏名に下線)</p> <p>◎<u>三宅紀子</u>、石黒正路、米田照代</p>  |                 |
| <p>年間の活動:</p> <p>オリエンテーションにおいて、博士前期課程および後期課程の学生に対する講義、年間スケジュール等教務に関する説明を実施した。7月3日に応用生命科学研究科修士論文研究中間発表会を開催した(前期課程2年生、8演題)。3月2日に前期課程修士論文発表会を実施した。後期課程については、中間研究発表会を3月8日～3月25日に研究室別に開催し、公開とした。来年度の教務関連の学年暦について、後期課程の完成年度に向けて、卒業論文、修士論文、博士論文の提出、口頭発表等のスケジュールが重なり、指導に支障をきたすことがないように、修士論文の提出、審査、口頭発表のスケジュールをこれまでよりも早めることとした。また、薬学部6年制に伴い、博士前期課程を当面応用生命科学研究科の中に薬科学コースとして設置することになり、そのための教務関連規程などを整備した。</p> |                 |
| <p>問題点の提起:</p> <p>中間研究発表会は院生の研究発表力向上のための機会であると同時に、他の研究室の教員からもアドバイスと受けることができ、その後を研究の遂行にも役立つ意義のあるものと考えられ、今後も継続が望まれる。外国人留学生の授業料の免除については、薬学研究科との同一にするという考え方もあると思えるが、応用生命科学研究科博士後期課程においては日本人の学生がほとんどであることから、全学生に対して公平であることが必要なのではないかと考えられる。</p>   |                 |
| <p>平成22年度の活動目標:</p> <p>博士前期課程、後期課程ともに研究中間発表会、修士論文発表会などの実施。<br/>教育・研究の質をより高めた大学院教育を行うこと。</p>  |                 |

# 資 料

- 授業担当時間
- 委員会等担当
- 研究業



|                   | 市川 | 梨本 | 石黒 | 平岡 | 武内 | 波田野 | 太田 | 小西 | 平山 | 浦上 | 鯉坂 | 高久  | 川田  | 中村  | 佐藤  | 三宅  | 重松  | 新井  | 高橋歩 | 伊藤 | 田宮 | 相井 | 小瀬 | 西田 | 永塚 | 小長谷 | 宮崎 | 小島 | 川上 |  |
|-------------------|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|--|
| 職位                | 教授 | 教授 | 教授 | 教授 | 教授 | 教授  | 教授 | 教授 | 教授 | 教授 | 教授 | 准教授 | 准教授 | 准教授 | 准教授 | 准教授 | 准教授 | 准教授 | 准教授 | 助教 | 助教 | 助教 | 助教 | 助教 | 助教 | 助教  | 助教 | 助手 | 助手 |  |
| 1週間の授業時間数         | 6  | 5  | 4  | 6  | 8  | 11  | 8  | 5  | 1  | 7  | 7  | 5   | 11  | 9   | 5   | 7   | 6   | 9   | 14  | 5  | 3  | 6  |    | 3  | 3  | 3   | 6  | 4  | 3  |  |
| 部局長会              |    |    |    | ○  | ○  | ○   | ○  | ○  |    | ○  |    |     |     |     |     |     |     |     |     |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |  |
| 教授会               | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○   | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○   | ○   | ○   | ○   | ○   | ○   | ○   | ○   | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○   | ○  | ○  |    |  |
| 大学院会              |    |    |    | ○  |    |     |    |    |    |    |    |     |     |     |     | ○   | ○   |     |     |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |  |
| 研究科委員会            | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○   | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○   | ○   | ○   | ○   | ○   | ○   | ○   |     |    |    |    |    | ○  |    |     |    |    |    |  |
| <b>学部委員会</b>      |    |    |    |    |    |     |    |    |    |    |    |     |     |     |     |     |     |     |     |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |  |
| 予算委員会             |    |    |    | ◎  | ○  | ○   | ○  |    |    | ○  | ○  |     |     |     |     |     |     |     |     |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |  |
| 将来計画委員会           |    |    |    | ◎  | ○  | ○   | ○  |    |    | ○  | ○  |     |     |     |     |     |     |     |     |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |  |
| 自己点検・評価委員会(大学院兼任) |    |    |    | ◎  | ○  |     |    |    |    | ○  |    |     |     |     | ○   |     |     |     |     |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |  |
| FD委員会(大学院兼任)      |    | ○  |    |    | ○  |     |    |    |    | ○  |    |     |     |     | ◎   |     |     |     | ○   |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |  |
| 教務委員会             |    | ○  |    |    |    | ◎   |    |    |    |    |    | ○   |     |     |     |     |     |     | ○   | ○  |    |    |    |    |    |     |    |    |    |  |
| 学生委員会             |    |    |    |    |    |     | ◎  |    |    |    |    | ○   | ○   |     |     | ○   | ○   |     |     |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |  |
| 入試委員会             | ○  |    |    |    | ◎  |     |    |    |    |    | ○  |     |     | ○   | ○   |     |     |     |     |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |  |
| 就職委員会             |    |    |    |    |    |     |    |    |    | ◎  | ○  | ○   | ○   |     | ○   |     |     |     |     |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |  |
| 図書委員会             |    |    |    |    |    |     |    |    |    |    |    |     |     | ○   |     | ◎   | ○   |     |     |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |  |
| 国際交流委員会           |    | ◎  |    |    |    |     |    | ○  |    |    |    |     | ○   |     |     |     |     |     |     |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |  |
| 防災委員会             | ○  |    |    |    |    |     |    |    |    | ○  |    | ◎   | ○   |     |     |     |     | ○   |     |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |  |
| 共通機器・施設委員会        |    |    | ◎  |    |    |     |    |    |    |    | ○  | ○   | ○   |     | ○   |     |     |     |     |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |  |
| <b>全学委員会</b>      |    |    |    |    |    |     |    |    |    |    |    |     |     |     |     |     |     |     |     |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |  |
| 広報委員会             |    |    |    |    | ○  |     |    |    |    | ○  |    |     |     | ○   |     |     |     |     |     |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |  |
| ホームページ委員会         |    |    |    |    |    |     |    |    |    |    |    |     |     | ○   |     |     |     |     |     |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |  |
| ハラスメント防止委員会       |    |    |    | ○  |    |     | ○  |    |    |    |    |     |     |     |     |     |     |     |     |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |  |
| センター入試委員会         |    |    |    | ○  | ○  |     |    |    |    |    |    |     |     |     | ○   |     |     |     |     |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |  |
| 図書館運営委員会          |    |    |    |    | ◎  |     |    |    |    |    |    |     |     |     | ○   | ○   | ○   |     |     |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |  |
| 倫理審査委員会           |    |    |    |    |    |     |    |    | ◎  | ○  |    |     |     |     |     |     |     |     |     |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |  |
| <b>センター(全学)</b>   |    |    |    |    |    |     |    |    |    |    |    |     |     |     |     |     |     |     |     |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |  |
| 産官学連携推進センター運営委員会  |    |    |    |    |    |     | ◎  | ○  | ○  |    |    | ○   |     |     |     |     |     |     |     |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |  |
| <b>施設・管理(全学)</b>  |    |    |    |    |    |     |    |    |    |    |    |     |     |     |     |     |     |     |     |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |  |
| IT委員会             |    |    |    |    |    |     |    |    |    | ○  |    |     |     |     |     |     |     |     | ○   |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |  |
| 体育施設管理運営委員会       |    |    |    |    |    |     | ○  |    |    |    |    |     | ○   |     |     |     |     |     |     |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |  |
| 放射線安全管理委員会        |    | ○  |    |    |    |     |    |    |    |    |    |     |     |     |     |     |     |     | ○   |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |  |
| RI施設運営委員会         |    | ○  |    |    |    |     |    |    |    |    |    | ○   |     |     |     |     |     |     | ○   |    |    |    |    |    | ○  |     |    |    |    |  |
| 動物実験委員会           | ○  |    |    |    |    |     |    |    |    |    |    |     |     |     | ○   | ○   |     |     |     |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |  |
| 組換えDNA実験安全委員会     | ○  |    |    |    |    |     |    |    |    |    |    | ◎   |     |     |     |     |     |     |     |    |    | ○  |    |    |    |     |    |    |    |  |
| 病原体等安全管理委員会       |    |    |    |    |    |     | ◎  |    |    | ○  |    |     |     |     |     |     |     |     |     |    |    |    |    |    |    |     | ○  |    |    |  |
| <b>研究科委員会</b>     |    |    |    |    |    |     |    |    |    |    |    |     |     |     |     |     |     |     |     |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |  |
| 研究科入試委員会          |    |    |    | ○  |    |     |    |    | ○  |    |    |     |     |     |     |     | ◎   |     |     |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |  |
| 研究科教務委員会          |    |    | ○  |    |    |     |    |    |    |    |    |     |     |     |     | ◎   |     |     |     |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |  |
| ◎ 委員長             |    | 1  | 1  | 3  | 2  | 1   | 2  | 1  | 1  | 1  |    |     |     |     | 1   | 1   | 1   |     |     |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |  |
| ○ 委員              | 4  | 4  | 1  | 3  | 6  | 2   | 4  | 1  | 2  | 10 | 5  | 5   | 6   | 8   | 5   | 4   | 3   | 4   | 3   |    |    | 1  |    | 1  |    | 1   |    |    |    |  |
| <b>学校法人</b>       |    |    |    |    |    |     |    |    |    |    |    |     |     |     |     |     |     |     |     |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |  |
| 理事                |    | ○  |    | ○  |    |     |    |    |    |    |    |     |     |     |     |     |     |     |     |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |  |
| 評議員               |    | ○  |    |    | ○  | ○   |    |    |    |    |    |     |     |     |     |     |     |     |     |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |  |
| <b>研究業績</b>       |    |    |    |    |    |     |    |    |    |    |    |     |     |     |     |     |     |     |     |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |  |
| 発表論文              |    | 4  | 6  |    | 2  |     | 9  |    | 1  | 1  | 2  | 5   | 2   | 2   |     | 4   |     |     | 1   |    |    |    | 1  | 5  |    | 1   | 1  | 2  | 1  |  |
| 学会発表              | 5  | 5  | 8  |    | 8  |     | 10 | 3  | 2  | 18 | 4  | 19  | 6   | 7   | 9   | 13  | 2   | 1   | 5   | 4  | 3  | 10 | 5  | 5  | 1  | 18  | 6  | 11 |    |  |
| 著書                |    |    |    | 1  |    |     |    | 1  |    | 2  | 2  | 2   |     | 1   |     |     |     |     | 2   |    |    |    |    | 1  |    | 2   |    |    |    |  |
| 特許出願              |    | 1  |    |    |    |     | 2  | 1  |    | 1  |    |     |     |     | 1   |     |     |     |     |    |    |    |    | 2  |    |     | 1  |    | 1  |  |
| 科研費               |    | 1  | 3  |    |    |     |    |    |    |    |    | 1   | 1   | 1   |     | 1   | 1   |     |     |    |    | 1  | 1  | 1  |    |     |    |    |    |  |
| 受託研究費             | 1  | 1  | 2  |    |    |     | 4  | 2  | 3  | 2  | 3  | 3   | 3   | 3   | 1   | 1   | 1   | 1   |     | 1  | 1  |    |    | 4  | 1  | 1   | 2  |    |    |  |
| 奨学研究費             |    |    | 1  |    |    |     | 2  | 1  |    | 1  | 1  | 1   | 1   | 1   | 1   | 1   |     |     |     |    |    |    |    | 1  |    |     | 1  |    |    |  |
| その他の研究活動          |    |    | 1  | 1  |    |     |    |    |    |    |    | 1   | 1   |     |     |     | 4   |     | 1   | 4  |    |    |    |    |    |     |    |    |    |  |

●授業時間数は、平成21年度学校法人基礎調査(日本私立学校振興・共済事業団)の算出方法に基づく、平成21年5月1日現在の担当予定時間数である。

●1週間の授業時間数が6時間以上であることが、専任教員の認定(経常費補助金の基礎となる教員数に組み入れることができる)基準の1つとなる。ただし、助教・助手の認定については、授業時間に係る基準は適用されない。

●省略標記の説明

<学年> M1・2:博士前期課程1年・2年、D1:博士後期課程1年生、その他は学部の学年

<学期> 前:前期、後:後期

<必選の別> 必:必修科目(応用生命科学科のみの必修科目及び食品科学科のみの必修科目を含む)、選:選択科目

<関係資格> 衛:食品衛生コース科目(食品衛生監視員及び食品衛生管理者任用資格取得)、

NR:NR養成講座科目、FS:フードスペシャリスト養成課程科目

| 担当者        | 科目名称           | 学年   | 学期 | 必選の別 | 単位数 | 関係資格 | 授業毎時間数 | 合計時間数(A) | 一週間の授業時間数(A/30)(B) | 年間総時間(B*30) |
|------------|----------------|------|----|------|-----|------|--------|----------|--------------------|-------------|
| 市川<br>(教授) | 応用生命科学概論       | 1    | 前  | 必    | 2   |      | 1      |          |                    |             |
|            | 応用生命科学基礎実習Ⅱ    | 1    | 後  | 必    | 1   |      | 30     |          |                    |             |
|            | 生化学Ⅰ           | 2    | 前  | 必    | 2   | 衛    | 30     |          |                    |             |
|            | 科学技術英語         | 3    | 後  | 必    | 1   |      | 28     |          |                    |             |
|            | 動物バイオテクノロジー    | 3    | 後  | 必    | 2   |      | 30     |          |                    |             |
|            | 生命科学実習Ⅴ        | 3    | 前  | 必    | 1   |      | 40     |          |                    |             |
|            | 生命科学特別講義       | 3    | 後  | 選    | 2   |      | 2      |          |                    |             |
|            | 動物・細胞生物学工学特殊講義 | M1・2 | 前  | 選    | 1   |      | 16     | 177      | 6                  | 180         |
| 梨本<br>(教授) | 応用生命科学概論       | 1    | 前  | 必    | 2   |      | 0.5    |          |                    |             |
|            | 応用生命科学基礎実習Ⅱ    | 1    | 後  | 必    | 1   |      | 20     |          |                    |             |
|            | 生命科学実習Ⅱ        | 2    | 後  | 必    | 1   |      | 40     |          |                    |             |
|            | 細胞生物学          | 3    | 前  | 必    | 2   |      | 30     |          |                    |             |
|            | 科学技術英語         | 3    | 後  | 必    | 1   |      | 14     |          |                    |             |
|            | 遺伝の分子生物学       | 2    | 後  | 必    | 2   |      | 30     |          |                    |             |
|            | 生命科学特別講義       | 3    | 後  | 選    | 2   |      | 1      |          |                    |             |
|            | 応用微生物・遺伝子工学特論  | M1・2 | 後  | 選    | 2   |      | 8      | 143.5    | 5                  | 150         |
| 石黒<br>(教授) | 応用生命科学概論       | 1    | 前  | 必    | 2   |      | 0.5    |          |                    |             |
|            | 生物有機化学Ⅰ        | 2    | 前  | 必    | 2   | 衛    | 17     |          |                    |             |
|            | 生物有機化学Ⅱ        | 2    | 後  | 必    | 2   | 衛    | 30     |          |                    |             |
|            | 科学技術英語         | 3    | 後  | 必    | 1   |      | 14     |          |                    |             |
|            | ゲノム創薬          | 3    | 後  | 選    | 2   |      | 16     |          |                    |             |
|            | 生体分子認識科学       | 3    | 前  | 選    | 2   |      | 30     |          |                    |             |
|            | 化学工業とグリーンケミストリ | 3    | 後  | 選    | 2   |      | 8      |          |                    |             |
|            | ケミカルバイオロジー特論   | M1・2 | 前  | 選    | 1   |      | 8      | 123.5    | 4                  | 120         |
| 平岡<br>(教授) | 一次産業と社会・生活     | 1    | 前  | 必    | 2   |      | 15     |          |                    |             |
|            | 応用生命科学概論       | 1    | 前  | 必    | 2   |      | 3      |          |                    |             |
|            | 応用生命科学基礎実習Ⅱ    | 1    | 後  | 必    | 1   |      | 30     |          |                    |             |
|            | 植物バイオテクノロジー    | 2    | 後  | 必    | 2   |      | 30     |          |                    |             |
|            | 科学技術英語         | 3    | 後  | 必    | 1   |      | 28     |          |                    |             |
|            | 生命科学実習Ⅲ        | 3    | 前  | 必    | 1   |      | 40     |          |                    |             |
|            | 植物環境学          | 3    | 前  | 選    | 2   |      | 30     |          |                    |             |
|            | 生命科学特別講義       | 3    | 後  | 選    | 2   |      | 4      | 180      | 6                  | 180         |

|             |                |      |   |   |   |         |       |       |     |     |
|-------------|----------------|------|---|---|---|---------|-------|-------|-----|-----|
| 武内<br>(教授)  | 有機化学           | 1    | 後 | 必 | 2 | 衛       | 58    |       |     |     |
|             | 応用生命科学概論       | 1    | 前 | 必 | 2 |         | 1     |       |     |     |
|             | 応用生命科学基礎実習Ⅳ    | 2    | 前 | 必 | 1 | 衛       | 80    |       |     |     |
|             | 有機合成化学         | 3    | 前 | 必 | 2 |         | 30    |       |     |     |
|             | 生命科学実習Ⅳ        | 3    | 前 | 必 | 1 |         | 40    |       |     |     |
|             | 環境調和有機合成化学特殊講義 | D1   | 後 | 選 | 1 |         | 16    | 225   | 8   | 240 |
| 波田野<br>(教授) | 基礎無機化学         | 1    | 前 | 必 | 2 | 衛       | 58    |       |     |     |
|             | 基礎無機化学演習       | 1    | 前 | 必 | 1 |         | 32    |       |     |     |
|             | 無機化学           | 1    | 後 | 必 | 1 | 衛       | 58    |       |     |     |
|             | 無機化学演習         | 1    | 後 | 必 | 1 |         | 60    |       |     |     |
|             | 応用生命科学概論       | 1    | 前 | 必 | 2 |         | 0.5   |       |     |     |
|             | 応用生命科学基礎実習Ⅰ    | 1    | 後 | 必 | 1 | 衛       | 80    |       |     |     |
|             | 科学技術英語         | 3    | 後 | 必 | 1 |         | 28    |       |     |     |
|             | 食品科学特別講義       | 3    | 後 | 選 | 2 | NR      | 2     |       |     |     |
| 生物物理化学特殊講義  | D1             | 前    | 選 | 1 |   | 16      | 334.5 | 11    | 330 |     |
| 太田<br>(教授)  | 基礎生物学          | 1    | 前 | 必 | 2 |         | 58    |       |     |     |
|             | 基礎生物学演習        | 1    | 前 | 必 | 1 |         | 28    |       |     |     |
|             | 生物学            | 1    | 後 | 必 | 2 |         | 58    |       |     |     |
|             | 生物学演習          | 1    | 後 | 必 | 1 |         | 28    |       |     |     |
|             | 応用生命科学概論       | 1    | 前 | 必 | 2 |         | 0.5   |       |     |     |
|             | 機能形態学          | 2    | 前 | 選 | 2 |         | 30    |       |     |     |
|             | 科学技術英語         | 3    | 後 | 必 | 1 |         | 28    | 230.5 | 8   | 240 |
| 小西<br>(教授)  | 応用生命科学概論       | 1    | 前 | 必 | 2 |         | 0.5   |       |     |     |
|             | 応用生命科学基礎実習Ⅲ    | 2    | 前 | 必 | 1 | 衛       | 30    |       |     |     |
|             | 科学技術英語         | 3    | 後 | 必 | 1 |         | 14    |       |     |     |
|             | 生体機能学          | 3    | 前 | 選 | 2 |         | 30    |       |     |     |
|             | 機能食品科学         | 3    | 後 | 必 | 2 | 衛・NR・FS | 30    |       |     |     |
|             | 食品科学実習Ⅲ        | 3    | 前 | 必 | 1 | 衛       | 40    |       |     |     |
|             | 食品科学特別講義       | 3    | 後 | 選 | 2 | NR      | 1     |       |     |     |
| 食品機能分析学特論   | M1・2           | 後    | 選 | 1 |   | 6       | 151.5 | 5     | 150 |     |
| 平山<br>(教授)  | 応用生命科学概論       | 1    | 前 | 必 | 2 |         | 1     |       |     |     |
|             | 食料・食品資源学       | 2    | 後 | 必 | 2 | 衛・FS    | 12.86 |       |     |     |
|             | 科学技術英語         | 3    | 後 | 必 | 1 |         | 8     |       |     |     |
|             | 食品科学特別講義       | 3    | 後 | 選 | 2 | NR      | 10    | 31.86 | 1   | 30  |
| 浦上<br>(教授)  | 応用生命科学概論       | 1    | 前 | 必 | 2 |         | 1     |       |     |     |
|             | 科学技術英語         | 3    | 後 | 必 | 1 |         | 28    |       |     |     |
|             | 分子免疫学          | 3    | 前 | 選 | 2 |         | 30    |       |     |     |
|             | 食品微生物学         | 3    | 前 | 必 | 2 | 衛・NR    | 15    |       |     |     |
|             | 食品安全学          | 3    | 後 | 必 | 2 | 衛・FS    | 30    |       |     |     |
|             | 食品科学実習Ⅴ        | 3    | 前 | 必 | 1 | 衛       | 40    |       |     |     |
|             | 食中毒疫学          | 3    | 後 | 選 | 2 | 衛       | 21    |       |     |     |
|             | 食品科学特別講義       | 3    | 後 | 選 | 2 | NR      | 2     |       |     |     |
|             | 食品安全学特論        | M1・2 | 後 | 選 | 1 |         | 16    |       |     |     |
| 食品安全学特殊講義   | D1             | 前    | 選 | 1 |   | 16      | 199   | 7     | 210 |     |

|               |                 |      |   |   |     |      |       |       |     |     |
|---------------|-----------------|------|---|---|-----|------|-------|-------|-----|-----|
| 鯨坂<br>(教授)    | 生物有機化学 I        | 2    | 前 | 必 | 2   | 衛    | 13    |       |     |     |
|               | 応用生命科学基礎実習Ⅳ     | 2    | 前 | 必 | 1   | 衛    | 80    |       |     |     |
|               | 食品化学            | 2    | 前 | 必 | 2   | 衛    | 30    |       |     |     |
|               | 食品科学実習Ⅰ         | 2    | 後 | 必 | 1   | 衛・FS | 40    |       |     |     |
|               | 科学技術英語          | 3    | 後 | 必 | 1   |      | 10    |       |     |     |
|               | 食品酵素化学          | 3    | 前 | 選 | 2   |      | 28    |       |     |     |
|               | 食品科学特別講義        | 3    | 後 | 選 | 2   | NR   | 2     |       |     |     |
|               | 食品生物工学・分子科学特殊講義 | D1   | 後 | 選 | 1   |      | 16    | 219   | 7   | 210 |
| 高久<br>(准教授)   | 基礎数学演習          | 1    | 前 | 選 | 1   |      | 14    |       |     |     |
|               | 応用生命科学概論        | 1    | 前 | 必 | 2   |      | 0.5   |       |     |     |
|               | 応用生命科学基礎実習Ⅱ     | 1    | 後 | 必 | 1   |      | 20    |       |     |     |
|               | 生命科学実習Ⅱ         | 2    | 後 | 必 | 1   |      | 40    |       |     |     |
|               | 生物工学            | 2    | 後 | 選 | 2   | 衛    | 15    |       |     |     |
|               | 科学技術英語          | 3    | 後 | 必 | 1   |      | 14    |       |     |     |
|               | 微生物バイオテクノロジー    | 3    | 後 | 必 | 2   |      | 30    |       |     |     |
|               | 化学工業とグリーンケミストリ  | 3    | 後 | 選 | 2   |      | 8     |       |     |     |
| 生命科学特別講義      | 3               | 後    | 選 | 2 |     | 1    |       |       |     |     |
| 応用微生物・遺伝子工学特論 | M1・2            | 後    | 選 | 1 |     | 8    | 150.5 | 5     | 150 |     |
| 川田<br>(准教授)   | 一次産業と社会・生活      | 1    | 前 | 必 | 2   |      | 15    |       |     |     |
|               | 生活安全学           | 1    | 後 | 必 | 2   |      | 30    |       |     |     |
|               | 基礎無機化学演習        | 1    | 前 | 必 | 1   |      | 28    |       |     |     |
|               | コミュニケーション論A     | 1    | 前 | 選 | 2   |      | 4     |       |     |     |
|               | 応用生命科学概論        | 1    | 前 | 必 | 2   |      | 1     |       |     |     |
|               | 環境科学            | 2    | 後 | 必 | 2   | 衛    | 30    |       |     |     |
|               | 分析化学            | 2    | 前 | 必 | 2   | 衛    | 58    |       |     |     |
|               | 応用生命科学基礎実習Ⅲ     | 2    | 前 | 必 | 1   | 衛    | 20    |       |     |     |
|               | 資源循環論           | 2    | 後 | 必 | 2   |      | 30    |       |     |     |
|               | 生命科学実習Ⅰ         | 2    | 後 | 必 | 1   |      | 40    |       |     |     |
|               | 科学技術英語          | 3    | 後 | 必 | 1   |      | 28    |       |     |     |
|               | 環境保全学           | 3    | 前 | 選 | 2   |      | 30    |       |     |     |
| 生命科学特別講義      | 3               | 後    | 選 | 2 |     | 2    |       |       |     |     |
| 資源再生・安全科学特論   | M1・2            | 前    | 選 | 1 |     | 16   | 332   | 11    | 330 |     |
| 中村<br>(准教授)   | 基礎有機化学          | 1    | 前 | 必 | 1   | 衛    | 58    |       |     |     |
|               | 基礎有機化学演習        | 1    | 前 | 必 | 1   |      | 28    |       |     |     |
|               | 有機化学演習          | 1    | 後 | 必 | 1   |      | 28    |       |     |     |
|               | 応用生命科学基礎実習Ⅳ     | 2    | 前 | 必 | 1   | 衛    | 80    |       |     |     |
|               | 科学技術英語          | 3    | 後 | 必 | 1   |      | 28    |       |     |     |
|               | 生命科学実習Ⅳ         | 3    | 前 | 必 | 1   |      | 40    |       |     |     |
|               | 生命科学特別講義        | 3    | 後 | 選 | 2   |      | 2     | 264   | 9   | 270 |
| 佐藤<br>(准教授)   | ドライラボⅡ-IT基礎演習   | 1    | 前 | 必 | 0.5 |      | 8     |       |     |     |
|               | 応用生命科学概論        | 1    | 前 | 必 | 2   |      | 0.5   |       |     |     |
|               | ドライラボⅢ-IT中級演習   | 2    | 前 | 必 | 0.5 |      | 4     |       |     |     |
|               | 物理化学            | 2    | 前 | 必 | 2   |      | 15    |       |     |     |
|               | 応用生命科学基礎実習Ⅲ     | 2    | 前 | 必 | 1   | 衛    | 30    |       |     |     |
|               | 食品分析学           | 2    | 後 | 必 | 2   | 衛・FS | 30    |       |     |     |
|               | 科学技術英語          | 3    | 後 | 必 | 1   |      | 14    |       |     |     |
|               | 食品科学実習Ⅲ         | 3    | 前 | 必 | 1   | 衛    | 40    |       |     |     |
|               | 食品科学特別講義        | 3    | 後 | 選 | 2   | NR   | 1     |       |     |     |
|               | 食品機能分析学特論       | M1・2 | 後 | 選 | 1   |      | 6     | 148.5 | 5   | 150 |

|                 |                |   |   |   |   |         |        |     |     |
|-----------------|----------------|---|---|---|---|---------|--------|-----|-----|
| 三宅<br>(准教授)     | コミュニケーション論A    | 1 | 前 | 選 | 2 |         | 4      |     |     |
|                 | 応用生命科学概論       | 1 | 前 | 必 | 2 |         | 1      |     |     |
|                 | 応用生命科学基礎実習Ⅲ    | 2 | 前 | 必 | 1 | 衛       | 30     |     |     |
|                 | 栄養科学           | 2 | 後 | 必 | 2 | 衛・FS    | 15     |     |     |
|                 | 食品科学実習Ⅱ        | 2 | 後 | 必 | 1 | 衛       | 40     |     |     |
|                 | 科学技術英語         | 3 | 後 | 必 | 1 |         | 28     |     |     |
|                 | 食品加工・保蔵学       | 3 | 前 | 選 | 2 | 衛・NR・FS | 30     |     |     |
|                 | 栄養生理学          | 3 | 後 | 選 | 2 | 衛       | 18     |     |     |
|                 | フードコーディネータ論    | 3 | 前 | 選 | 2 | FS      | 30     |     |     |
|                 | 食品科学特別講義       | 3 | 後 | 選 | 2 | NR      | 2      | 198 | 7   |
| 重松<br>(准教授)     | 応用生命科学概論       | 1 | 前 | 必 | 2 |         | 1      |     |     |
|                 | 機器分析学          | 2 | 後 | 必 | 2 |         | 15     |     |     |
|                 | 食料・食品資源学       | 2 | 後 | 必 | 2 | 衛・FS    | 4.28   |     |     |
|                 | 生物工学           | 2 | 後 | 選 | 2 | 衛       | 15     |     |     |
|                 | 科学技術英語         | 3 | 後 | 必 | 1 |         | 20     |     |     |
|                 | 化学工業とグリーンケミストリ | 3 | 後 | 選 | 2 |         | 8      |     |     |
|                 | 食品微生物学         | 3 | 前 | 必 | 2 | 衛・NR    | 13     |     |     |
|                 | 食品製造学          | 3 | 前 | 必 | 2 | 衛       | 30     |     |     |
|                 | 食品科学実習Ⅳ        | 3 | 前 | 必 | 1 | 衛       | 40     |     |     |
|                 | 食品物理化学         | 3 | 後 | 選 | 2 |         | 15     |     |     |
|                 | 食品科学特別講義       | 3 | 後 | 選 | 2 | NR      | 2      |     |     |
| グリーンプロセス・食品工学特論 | M1・2           | 前 | 選 | 1 |   | 16      | 179.28 | 6   | 180 |
| 新井<br>(准教授)     | 基礎有機化学演習       | 1 | 前 | 必 | 1 |         | 28     |     |     |
|                 | コミュニケーション論A    | 1 | 前 | 選 | 2 |         | 2      |     |     |
|                 | 機械の動く原理        | 1 | 後 | 選 | 2 |         | 30     |     |     |
|                 | 有機化学演習         | 1 | 後 | 必 | 1 |         | 28     |     |     |
|                 | 応用生命科学概論       | 1 | 前 | 必 | 1 |         | 2      |     |     |
|                 | 機器分析学          | 2 | 後 | 必 | 2 |         | 15     |     |     |
|                 | 分子構造解析学        | 2 | 前 | 必 | 2 |         | 30     |     |     |
|                 | 応用生命科学基礎実習Ⅳ    | 2 | 前 | 必 | 1 | 衛       | 80     |     |     |
|                 | 食品科学実習Ⅰ        | 2 | 後 | 必 | 1 | 衛・FS    | 40     |     |     |
|                 | 科学技術英語         | 3 | 後 | 必 | 1 |         | 10     | 265 | 9   |
| 高橋<br>(准教授)     | 英語Ⅰ            | 1 | 前 | 必 | 1 |         | 58     |     |     |
|                 | 英語Ⅱ            | 1 | 後 | 必 | 1 |         | 58     |     |     |
|                 | コミュニケーション英語Ⅰ   | 1 | 前 | 選 | 1 |         | 28     |     |     |
|                 | コミュニケーション英語Ⅱ   | 1 | 後 | 選 | 1 |         | 28     |     |     |
|                 | コミュニケーション論A    | 1 | 前 | 選 | 2 |         | 2      |     |     |
|                 | 科学技術英語Ⅱ(再)     | 1 | 後 | 必 | 1 |         | 28     |     |     |
|                 | 英語Ⅲ            | 2 | 前 | 必 | 1 |         | 58     |     |     |
|                 | 英語Ⅳ            | 2 | 後 | 必 | 1 |         | 30     |     |     |
|                 | 科学技術英語Ⅳ(再)     | 2 | 後 | 必 | 1 |         | 0      |     |     |
|                 | 科学技術英語Ⅴ(再)     | 3 | 前 | 必 | 1 |         | 28     |     |     |
|                 | 英語リスニングⅠ       | 1 | 前 | 必 | 1 |         | 50     |     |     |
| 英語リスニングⅡ        | 1              | 後 | 必 | 1 |   | 50      | 418    | 14  | 420 |

|             |                     |      |   |   |     |      |      |        |   |     |
|-------------|---------------------|------|---|---|-----|------|------|--------|---|-----|
| 伊藤<br>(助教)  | 生物学演習               | 1    | 後 | 必 | 1   |      | 28   |        |   |     |
|             | 応用生命科学基礎実習Ⅱ         | 1    | 後 | 必 | 1   |      | 30   |        |   |     |
|             | ドライラボⅢ-IT中級演習       | 2    | 前 | 必 | 0.5 |      | 8    |        |   |     |
|             | 生化学Ⅱ                | 2    | 後 | 必 | 2   | 衛    | 30   |        |   |     |
|             | 生命科学実習Ⅴ             | 3    | 前 | 必 | 1   |      | 40   |        |   |     |
|             | 構造生物学とタンパク質工学       | 3    | 後 | 選 | 2   |      | 14   | 150    | 5 | 150 |
| 田宮<br>(助教)  | コミュニケーション論A         | 1    | 前 | 選 | 2   |      | 6    |        |   |     |
|             | 応用生命科学基礎実習Ⅰ         | 1    | 後 | 必 | 1   | 衛    | 80   |        |   |     |
|             | 物理化学                | 2    | 前 | 必 | 2   |      | 15   | 101    | 3 | 90  |
| 相井<br>(助教)  | 基礎生物学演習             | 1    | 前 | 必 | 1   |      | 28   |        |   |     |
|             | コミュニケーション論A         | 1    | 前 | 選 | 2   |      | 4    |        |   |     |
|             | 応用生命科学基礎実習Ⅱ         | 1    | 後 | 必 | 1   |      | 30   |        |   |     |
|             | 植物生理学               | 2    | 前 | 必 | 2   |      | 30   |        |   |     |
|             | ドライラボⅣ-バイオインフォマティクス | 3    | 前 | 必 | 2   |      | 8.66 |        |   |     |
|             | 生命科学実習Ⅲ             | 3    | 前 | 必 | 1   |      | 40   |        |   |     |
|             | 植物育種学               | 3    | 後 | 選 | 2   |      | 30   | 170.66 | 6 | 180 |
| 小瀬<br>(助教)  | ※H21.5.1現在のためデータなし  |      |   |   |     |      |      |        |   |     |
| 西田<br>(助教)  | 基礎数学演習              | 1    | 前 | 選 | 1   |      | 14   |        |   |     |
|             | 応用生命科学基礎実習Ⅲ         | 2    | 前 | 必 | 1   | 衛    | 30   |        |   |     |
|             | 食品科学実習Ⅲ             | 3    | 前 | 必 | 1   | 衛    | 40   |        |   |     |
|             | 食品機能分析学特論           | M1・2 | 後 | 選 | 1   |      | 4    | 88     | 3 | 90  |
| 永塚<br>(助教)  | 基礎生物学演習             | 1    | 前 | 必 | 1   |      | 28   |        |   |     |
|             | コミュニケーション論A         | 1    | 前 | 選 | 2   |      | 4    |        |   |     |
|             | 応用生命科学基礎実習Ⅲ         | 2    | 前 | 必 | 1   | 衛    | 30   |        |   |     |
|             | 食品科学実習Ⅱ             | 2    | 後 | 必 | 1   | 衛    | 40   | 102    | 3 | 90  |
| 小長谷<br>(助教) | 基礎生物学演習             | 1    | 前 | 必 | 1   |      | 28   |        |   |     |
|             | 食品微生物学              | 3    | 前 | 必 | 2   | 衛・NR | 2    |        |   |     |
|             | 食品安全学               | 3    | 後 | 必 | 2   | 衛・FS | 6    |        |   |     |
|             | 食品科学実習Ⅴ             | 3    | 前 | 必 | 1   | 衛    | 40   |        |   |     |
|             | 食中毒疫学               | 3    | 後 | 選 | 2   | 衛    | 9    | 85     | 3 | 90  |
| 宮崎<br>(助教)  | 基礎有機化学演習            | 1    | 前 | 必 | 1   |      | 28   |        |   |     |
|             | 有機化学演習              | 1    | 後 | 必 | 1   |      | 28   |        |   |     |
|             | 応用生命科学基礎実習Ⅳ         | 2    | 前 | 必 | 1   | 衛    | 80   |        |   |     |
|             | 食品科学実習Ⅰ             | 2    | 後 | 必 | 1   | 衛・FS | 40   |        |   |     |
|             | 科学技術英語              | 3    | 後 | 必 | 1   |      | 8    | 184    | 6 | 180 |
| 小島<br>(助手)  | 応用生命科学基礎実習Ⅳ         | 2    | 前 | 必 | 1   | 衛    | 80   |        |   |     |
|             | 生命科学実習Ⅳ             | 3    | 前 | 必 | 1   |      | 40   | 120    | 4 | 120 |
| 中山<br>(助手)  | 応用生命科学基礎実習Ⅲ         | 2    | 前 | 必 | 1   | 衛    |      | 90     | 3 | 90  |

平成21年度 自己点検・評価表

---

平成 23 年 3 月 31 日

編集 新潟薬科大学応用生命科学部自己点検・評価委員会  
石黒 正路(委員長)、佐藤 眞治、三宅 紀子